



大阪公立大学

# 有恒

yuko

2025 October vol.30



「知の森」をコンセプトに完成した大阪公立大学の森之宮メインキャンパス校舎 (大阪公立大学提供)

特別企画／一般社団法人有恒会 新理事長インタビュー  
小野薬品工業株式会社 代表取締役会長CEO 相良暁  
統合進む同窓会・東京支部設立記念対談  
山田昭正氏 vs 諏訪頼久氏

社長さんご紹介／株式会社ヨドコウ 代表取締役社長 田中栄一さん  
デンカ株式会社 代表取締役社長 石田郁雄さん



新薬をつくる。  
未来をつくっている。



薬をつくること。  
それは、誰かの希望をつくること。  
笑顔、幸せ、夢のつづきや、  
なんでもない毎日。  
ひとつの新薬をつくることで、  
沢山のかげがえのない未来を  
つくり出す。  
それが、私たち小野薬品の仕事です。



**BREAK THROUGH**

ONOは挑戦で、未来を変える

**ONO** 小野薬品工業株式会社



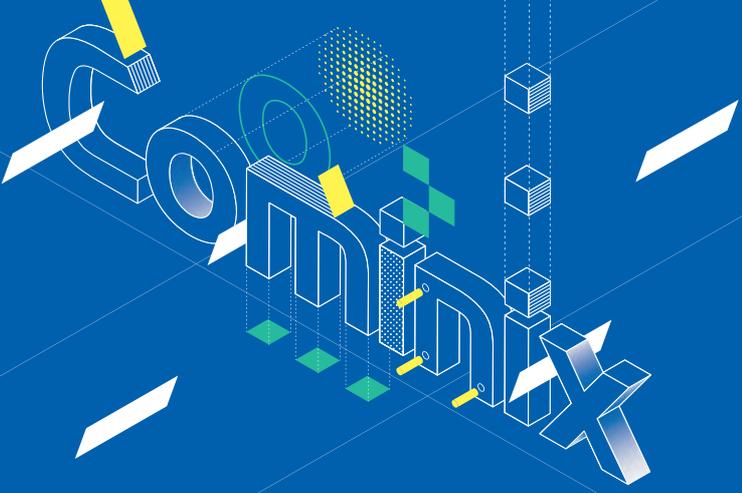
新東名高速道路 柳島高架橋



 **オリエンタル白石株式会社**

〒135-0061 東京都江東区豊洲五丁目6番52号  
TEL:03-6220-0630 (代表) FAX:03-6220-0634 <https://www.orsc.co.jp/>

一般社団法人有恒会 新理事長インタビュー 小野薬品工業株式会社 代表取締役会長CEO 相良暁	2
校友会東京支部・関東地区地域支部連合会設立記念対談 山田昭正・関東地区地域支部連合会会長 vs 諏訪頼久・東京支部長	4
東京支部並びに関東地区地域支部連合会設立総会 広島、中京でも統合同窓会の設立総会など開催	6
森之宮メインキャンパスが開設／大阪・関西万博に大阪公立大学と飯田グループが共同出展館	8
世界に通じる研究者 中川眞(芸術実践論)／岸本直文(考古学)／菅野拓(復興政策)	10
OB・OG紹介 文化活動家／近畿大学准教授 アサダワタル	13
特別インタビュー「ざっくばらん」	14
A.R.T.(Airline Recruitment Training)／アビオンエアラインスクール 代表取締役社長 和田雅子	16
社長さんご紹介 株式会社ヨドコウ 代表取締役社長 田中栄一 デンカ株式会社 代表取締役社長 石田郁雄	16
偉人列伝 メタセコイア研究者 三木茂博士と肥田美知子博士	18
大阪医史蹟巡り 江戸時代の大坂を巡る医者たち 田中祐尾	19
OBOG公務員と公務員志望学生交流会／卒業生のためのビジネス交流会開催／「八木孝昌さんを偲ぶ会」開催	20
大阪健康長寿医科学センター開設にむけて 柴田利彦	21
学園だより 22	読者の作品 43
同窓会ニュース 26	図書紹介 44
論壇・随想 32	大阪公立大学文化交流センター専門家講座のご案内 45
同窓短信 34	追悼／読者のご感想、ご意見 46
地域同窓会だより 36	事務局からのお知らせ 48
会員のひろば 40	掲載広告一覧・投稿規定・編集後記 49



ものづくりの生産性向上に貢献する高度専門商社  
**株式会社 Cominix**  
 証券コード:3173  
 取締役会長 柳川 重昌  
 工学部 応用物理学科 1969年(S.44) 卒  
 〒541-0054  
 大阪府中央区筋本町1丁目8-14 JRE筋本町ビル  
 TEL:06-7663-8208 (代表)



**大切な財産を「想い」とともに大切な人へ。**

相続・資産承継について、一緒に考えるお手伝いをさせていただきませんか？  
 相続に関する疑問やご不安がある方は、最寄りの京都銀行の店舗までご連絡ください。

■個別の対策の立案、実行は税理士・弁護士等の方々と十分ご相談のうえ、ご自身の責任においてご判断くださいますようお願い申し上げます。■ご相談の中で当行にてご案内させていただく各種商品・サービスにつきましては、当行所定の審査や手数料等が必要な場合がございます。

京都フィナンシャルグループ  
**京都銀行**

一般社団法人有恒会  
新理事長インタビュー

小野薬品工業株式会社代表取締役会長CEO  
相良 暁氏 (商昭58卒)

## 同窓生の人生をより豊かに、楽しく 大学と企業を結び地域の発展を支援

5月31日、有恒会理事長の岡本直之氏からバトンを引き継いだ相良暁氏。開学4年目を迎え、来春、いよいよ初めての学部卒業生を迎える大阪公立大学の文系同窓会「有恒会」のトップとなり陣頭指揮を執る。理事長就任に当たっての思いや今後の同窓会活動への抱負などをお聞きした。

— 理事長就任おめでとうございます。就任時の思いと今後の抱負をお聞かせください。

大変な重責を感じるとともに、身の引き締まる思いです。4年前に大学が統合され、同窓会としても対応していかなければならない中で、岡本前理事長が新たな形を作りかけておられるところでバトンタッチしました。数年前から「次はぜひ理事長に」と強く推薦をいただいていたのですが、なかなか本業との両立は難しく、固辞しておりました。

昨年、会長CEOになり、多忙は相変わらず続くなかで、岡本前理事長から引き続き要請いただき、変わらぬ熱意にとうとう心を動かされ、微力ながらお役に立てればとお引き受けしました。

今後の抱負につきましては、大学に対しては公立大学法人大阪の理事も務めていたこともあり、いろいろと意見を述べさせていただきましたが、同窓会につきましては経験が浅いため、皆さまからご指導をいただくとともに、同窓生の皆さん方と論議を重ね年内には方向性を出せたらと思っています。

— 大阪市立大学商学部のご卒業とお聞きしていますがどのような学生時代を過ごされたのでしょうか。

大阪府の生まれ育ちで、小中高大学まで大阪府内で過ごしました。故郷の大学であること、会計士や税理士をはじめ、様々な業界に人材を輩出しているということもあり、大阪市立大学を志望しました。学生時代は勉強をあまりしない学生で、中高時代はサッカーをやっていたのですが、たまたま部員を募集していたスキースキーの同好会に入りました。

それも大阪市立大学、大阪大学、神戸大学、大阪府立大

学の四大学連合の同好会で、2年生の時から責任者になり、スキーツアーを企画して参加者を集め、バスを2台、3台仕立ててスキー場へ行くというイベントを年に何本も企画していました。競技を競うクラブでなく、好きなスキーが楽しめることから同好会はとても楽しく、学生時代を満喫していました。



スキースキーの同好会で学生時代を満喫

— 大学卒業後、小野薬品工業に就職されましたが、どのようなきっかけで入社されたのでしょうか。

スキースキー同好会の活動をしていたので、就職先として旅行代理店や旅行業務を考えていました。当時は就職難でしたが、第一希望の会社で最終面接まで残り大丈夫と思っていたところ結局、落ちてしまいました。この時、友だちが「小野薬品という会社は丁寧に接してくれるから行ってみたら」と勧めてくれたのです。

それで会社説明会で話を聞くと非常に魅力的な会社で、

高齢化社会が進む中で薬品メーカーは成長する産業だと思ひ、特に小野薬品が開発していたプロスタグランジンという化合物に興味を持ちました。もう少し話を聞きたいと連絡し会社を訪れると、役員の方々が並んで「内定します」と言われ、私の誕生日の10月7日に正式採用の連絡をもらいました。この会社との巡り合わせを強く感じ入社したのです。

#### ― 会社でのキャリアについて教えてください。

営業マンからスタートして、医師や薬剤師に医療品の情報を提供するMR(医薬情報担当者)を4年間やりました。その後、営業の他の部署もいろいろ経験し、営業所長、支店長になり、営業本部に入りました。40代半ばまではずっと営業一本でした。当時はずいぶん泥臭い仕事で、早朝から仕事に走り回るような毎日でした。現在は薬学を専攻した学生を多く採用し、学術的な説明をしっかりとる仕事になっています。

営業の後、管理部門を2、3年担当し、その後突然49歳で社長に指名されました。当時、売上高の90%ほどの製品で独占的に販売できる特許期間が3年後になくなり、新たな医薬品を出していかなければならないという厳しい時期で、大変なプレッシャーを感じつつも、会社をしっかりと軌道に乗せるために奮闘していたころでした。

医薬品が世に出るまでには10年単位の時間がかかると言われますが、社長在任中ががん免疫療法薬の「オプジーボ」という薬の研究・開発に成功したことで、大きく成長できました。社員とともに全社一丸となって、突っ走ってきたという感じです。

― 母校の大阪市立大学は4年前に大阪府立大学と統合し我が国の公立大学としては最大の大阪公立大学に生まれ変わりました。卒業生のお一人として統合大学に対してどのような思いを抱かれていますか。

最初は「どうしても統合が必要なのか」という疑問はありました。経済的な観点から統合するのは理解できますが、大学にはそれぞれ培ってきた伝統や個性があるからです。しかし統合構想が進むにつれ、統合するのなら大きな目標を持って進んでほしい、日本一の公立大学になって規模

も内容も我が国有数の大学になってほしいと思うようになりました。

市立大、府立大には文系、理系、それぞれの強みがあると思いますが、今後も世界で活躍し、日本を代表するような人材を輩出してほしいと思います。国際卓越研究大学にもなってほしいし、世界大学ランキングでもさらなる上位を目指してもらいたい。農学部や獣医学部などもある総合大学となりましたが、製薬会社の人間としての個人的な願望ですが、できればさらに薬学部も加えていただいで、より多様な学部が充実した総合大学として飛躍してほしいと思っています。

― 135年の歴史を誇る有恒会ですが、大阪公立大学の開学とともに大阪府立大学の文系同窓会である陵友会と統合、一般社団法人となり、大きく発展しようとしていますが、今後どのような同窓会を目指そうと思われていますか、お聞かせください。

大学全体の同窓会として校友会があり、その中で文系の同窓会として有恒会があります。有恒会は歴史的に一番しっかりした組織で運営されている同窓会だと認識しています。同窓会は同窓生の人生をより豊かに楽しくするためのものであると同時に、今の大学をどうサポートできるかということも考えなければなりません。そのバランスをどうやっていくかが今後の課題となります。

同窓会の理想としては、年配の卒業生だけでなく、大学を卒業して間もない卒業生も

含めて成り立っていくことだと思います。若い世代をいかに同窓会に取り込んでいくかも大きな課題です。現在取り組んでいます若い卒業生と学生との交流会などもさらに活発にして、大学の発展に協力していくことも大事です。また、企業と大学が結びついて地域が活性化されることがとても重要で、多くの企業の経営者、研究者、従業員と大学の医学部、理学部、工学部などとの共同研究が活性化するよう、今までのやり方から一歩踏み込んだ取り組みを考えていきたいと思っています。

― ありがとうございます。

インタビュー、文責：藤山純一(法昭51卒)



「同窓会は同窓生の人生をより豊かに楽しくするためのものであると同時に、いかに大学を支援していくかが大事」と語る相良暁理事長

# 大阪公立大学校友会東京支部・関東地区地域支部連合会設立 東京で念願の統合同窓会、首都圏から大阪公立大学発信を!

【対談者】

**山田昭正氏**

大阪公立大学校友会関東地区地域支部連合会会長(東京支部副支部長)

**諏訪頼久氏**

大阪公立大学校友会東京支部長(関東地区地域支部連合会副会長)

大阪公立大学は今春開学4年目を迎え、9月には待望の森之宮メインキャンパスが誕生し統合後の学ぶ施設整備がほぼ整い、今後は我が国最大の公立大学として全国に、いや世界にどう飛躍していくのかが注目されています。そのような状況で、東京をはじめ首都圏で活躍する大阪市立大学、大阪府立大学の同窓生が一堂となってお互いの交流はもちろん、統合大学である大阪公立大学の発展に寄与しようと今年6月、校友会東京支部並びに関東地区地域支部連合会が誕生しました。そこで同窓会統合の経緯や今後どのような同窓会を目指すのかなど、大阪府立大学東京同窓会会長を務めてこられた山田昭正氏(府経昭43卒)と大阪市立大学同窓会東京支部長を務めてこられた諏訪頼久氏(理昭45卒)に語り合っていました。

一 大学統合に伴い首都圏においても2022年から大阪市立大学の5つの同窓会支部(東京、千葉、埼玉、横浜、湘南)と大阪府立大学東京同窓会の統合への協議がスタート、前向きな論議を積み重ね今年6月、「大阪公立大学校友会東京支部」と市大の残る4支部に府大の卒業生も加え「大阪公立大学校友会関東地区地域支部連合会」の設立に至りました。まずは統合を果たされたご感想をお聞かせください。

**山田** 2021年7月に大阪公立大学校友会準備理事会に参加し、主に地域同窓会・支部の担当をしていたことが私自身の大きな原動力となり、まず自分の在任地区の東京で結果を出したいと思い、市大のみなさんのご

協力を得て、東京支部だけでなく首都圏5支部で支部連合会まで誕生させることができ、いまはホッとしています。

**諏訪** ようやくここまで来たかという感じです。最初の話が始めるときはどういう形になるか、全く分からない、想像がつかない状態で手探りで始めたというのが実状でした。両大学の同窓会は活動の内容も形も違い大変悩んだところでした。そんな中で結果として統合同窓会の設立に至り、ほんとうに私もホッとした思いです。

## 半世紀の歴史を誇る同窓会が統合 「現場から動こう」と情報共有

一 それでは両同窓会が今日の統合に至るまでの経緯についてお聞かせください。

**山田** 府大東京同窓会は、1968年に創立した経済学部の東京陵友会がその源流になります。1985年の工農経3学部合同賀詞交換会を経て、92年に東京同窓会が設立されました。会報「東京同窓会報」の発行や相互研鑽の講演会「中もず会」の開催など、強い結束力で親睦を深めてきました。特に「中もず

会」はコロナ禍の時にはリアル開催ができないのを逆手に取り、全国、海外の同窓生もオンライン参加し、全国にファンが広がりました。

大学統合に伴う変化にはもちろん不安もありました。校友会で地域同窓会・支部の統合、あり方を検討している間も東京では「現場から動こう!」という空気が自然に生まれていまし

た。統合後の模索期においても、市大の5支部との話し合いは密に行われ、情報共有と信頼関係を築いてきました。そうした実務的な連携が最終的に統合同窓会の設立へとつながったのではないのでしょうか。

**諏訪** 市大の東京支部は1983年に「有恒会東京支部」誕生が原点となります。2018年には全学部同窓生も含む市大同窓会東京支部となり、同窓生の親睦と情報共有を目的とした活動は盛んで、多くの会員に支えられてきました。しかし一方で府大の同窓会とは、これまでほとんど接点がありませんでした。両大学は伝統も文化も異なるためです。ところが、両大学の統合が決定し、大阪公立大学が誕生すると、今までの壁が自然と薄れてきました。特に首都圏では、別々の支部で活動を続けるのは時代にそぐわないと感じ、東京支部を皮切り



同窓会統合の経緯などを語り合う山田昭正氏(左)と諏訪頼久氏(右)

と一緒に活動していこうという機運が高まりました。

また、東京、関東という土地柄、同窓生は非常に多様で、異なるバックグラウンドを持つ人たちが集まっています。こうした多様な人材と一緒に活動することで、大学の魅力や同窓会の存在感をより高められるのではないかと期待もありました。何より、大学統合後の新たなスタートとして、東京から統一した同窓会を作り上げることは象徴的な意味もありました。

## 再度の対話で壁乗り越える 「通じた」が統合の原動力

—しかし、統合に至るまで乗り越えるべき多くの課題が多かったと思いますが、どのような思いでどのようにクリアされてきたのでしょうか。



「全国の支部と連携し一体感ある活動をしていきたい」と語る山田氏

山田 武田信玄の言葉ではありませんが、「人は石垣、人は城」と言うように、人の結びつきが組織の基礎・基本ではないでしょうか。その意味でまず人と人の繋がりを強くすることを考えました。そこで双方からの提案で「まあビールでも飲みながら・・・」という雰囲気や打ち合わせと懇親を重ね、お互いに本音の話ができるようになったと思います。

もちろん府大側でも、伝統を守りたいという強い思いはありました。長年築いてきた「中もず会」や「会報」のブランドは、府大東京同窓会の誇りでもありました。そこに市大側の新しい風を入れることへの不安は否めませんでした。しかし、今後の大学の発展や同窓会の活性化を考えれば、首都圏での一体運営は避けて通れないと多くの会員が理解を示しました。そうした気持ちの変化や、対話の繰り返しを通じて、少しずつ壁を乗り越えていくことができたと思います。

諏訪 率直に申し上げて、市大側でも多くの困難がありました。組織文化の違いや、長年、別々に活動してきたことによる価値観の違いは当然のこととして存在します。私自身、市大側の代表として「やらなければならない」という使命感に強く駆られながらも、「本当にこれが最善なのか」「これからどんな困難が待っているのか」という葛藤がありました。

組織の壁を越えて新たに一体化するには、単なる形だけの合併ではなく、お互いの歴史や伝統、考え方を尊重しつつ融合させる必要があります。そのため、まずは時間をかけて双方の同窓会員が納得し合意できる共通のビジョンを作り上げる作業が不可欠でした。議論を重ねる中でお互いに仲間としての感覚ができ、気持ちが通じるものがありました。昨年秋の総会で統合が承認された瞬間は、まさに苦勞が報われた感覚で、これまでの努力が形になったことを実感しました。この「通じた」という感覚は、今後の活動の強い原動力となっています。

## 全国支部と一体感ある活動を 大学の発展を支える存在に!

—いよいよ統合同窓会がスタートしました。今後どのような同窓会を目指しますか。また全国、世界の同窓生に対して呼びかけたいことがあればお聞かせください。

山田 東京支部と支部連合会の成功例を全国の支部でも展開していただき、全国の支部と連携し大阪公立大学の同窓会として一体感のある活動を目指したい。大学のブランド向上と同窓生ネットワークの強化は相互に支え合うものです。これからも全力で取り組み、会員の皆さまに信頼される同窓会を築いていきたい。

東京支部だけでも地域同窓会としては最大の支部になったと思いますが、これに4支部を加えた連合会は各支部の活動を基本にしながら関東一円をカバーする最も大きな組織になったと思います。今後はこの力を校友会と協力してOBOGの交流促進を図るとともに、在学生支援などを行い、大学に寄与することで大学のブランド力アップに少しでも貢献できるようにしたいし、支部連合体は全国で初めての組織なので、今後各地域でも組織されるような手本になりたいですね。そのためには連合会向けの支援制度なども必要と考えています。

ただ人手不足は大きな課題です。多くの会員が働きながらボランティアで活動しているため、負担が集中しないよう分担や協力体制の構築を行う必要があります。東京支部がその運営面でのリーダーシップを発揮し、他支部の支援を積極的に行っていくことが重要です。校友会や有恒会など学部同窓会などとも連携し人材の発掘・確保に努めたい。また来年2026年3月には大阪公立大学の1期生が卒業します。彼らにも喜んでもらえるような同窓会にもしなければなりません。若い人に魅力ある同窓会づくりは大きな課題であるとともに、未来への礎ともなる大いなる希望であると考えています。

諏訪 市大東京支部は規模が小さいながらも、密度の濃い会員間のつながりを大切にしました小集団の活動があります。今回の統合を機に、両者の強みを活かしつつ、『進化した親睦』を目指しています。具体的には、伝統的な集まりの継続に加え、オンライン交流会や若手向けイベントの開催、女性会員や国際会員の参加促進など、多様な層が活躍できる仕組みづくりに力を入れたい。



「若い世代の声を反映は同窓会の持続的な発展に不可欠」と語る諏訪氏

東京支部にはこれまでも積極的に活動してきましたが、若い世代の参加がまだ十分とは言えません。若手の声を反映して参加を促し、多様な意見を取り入れる必要があります。特に女性会員や海外在住の同窓生も増えており、そうした層に対するフォローや交流の場づくりも必要です。これまでの伝統を

大切にしつつも、新しい時代にふさわしい柔軟かつ開かれた組織運営を進めていきたいと思えます。若い世代や女性会員、海外在住の同窓生も含め、すべての会員が参加しやすい環境づくりを心がけ、楽しく役立つ、そして皆さんが誇りを持つ同窓会を目指します。

また、大学と連携しながら、地域や社会に貢献する活動にも積極的に取り組みたい。変化の激しい時代にあっても、会員同士の絆を強め、大学の発展を支える存在であり続けたいです。

### 東京でのブランド力をアップ 同窓生も集える東京事務所を

一開学4年目を迎えた大阪公立大学に対する要望があればお聞かせください。

**山田** 実際、東京では大阪公立大学の名前を聞く機会はまだまだ少なく、もともとの市大や府大の知名度に依存している部分が大きいです。大学としては首都圏でのブランディング強化が必要であり、例えば東京駅や品川駅などでの広告掲示やイベント開催など、積極的なPR活動を計画しているとお聞きしています。櫻木弘之学長自身も外向きの発信を強化する姿勢を示されており、同窓会としてはその動きをバックアップすることで、大学の認知度向上とブランド力の強化に寄与したいと思っています。

またこのためのマスコミや広報戦略の強化は不可欠です。大学の研究だけでなく、産学連携や地域貢献、学生の活動など多面的な魅力を発信し、メディア露出を増やす努力を続ける必要があります。大学の東京事務所の設置も首都圏での活動の拠点確保と情報発信力の強化に大きく寄与します。交流イベントの企画や会員サポートの拠点にもなるため、重要な課題です。

同窓会としても大学公式発信のバックアップ役を担い、メディアやイベントへの働きかけを積極的に行っていききたい。広報チームと連携し戦略的な情報発信に取り組んでいきたいと思っています。

**諏訪** 大学との関係は私たち同窓会にとって非常に重要な



大阪公立大学校友会東京支部並びに関東地区地域支部連合会設立総会で連携を誓う  
左から櫻木学長、諏訪氏、山田氏、岡本直之校友会会長＝いずれも東京都内のホテルで

ものです。大阪公立大学として新たにスタートして以来、学長をはじめ大学の上層部からも同窓会に対する期待が高まっているのを感じています。大学側は同窓会を通じて広報活動や地域連携、学生支援など様々な面で連携したいと考えられており、同窓会もその役割を果たすべく積極的に協力しています。

ただ、現状ではおっしゃる通り地方大学ということでまだブランド力や認知度が東京では十分ではありません。例えば研究成果やイベント情報が首都圏の同窓生や関係者に届きにくいという課題があります。こうした情報の発信力強化は大学と同窓会双方にとって大きな課題です。今後は大学の広報部門との連携をより密にし、東京での大学の存在感を高める活動を同窓会としても支援していきたいと考えています。

東京に常設の事務所を設ける構想は以前からありました。首都圏の同窓生が気軽に訪れ、交流や情報交換ができる拠点として非常に意義深いと考えています。予算や人員の制約があると思いますが、設置の検討をしていただきたいと思います。東京支部としてもどのような協力ができるか考えて参ります。

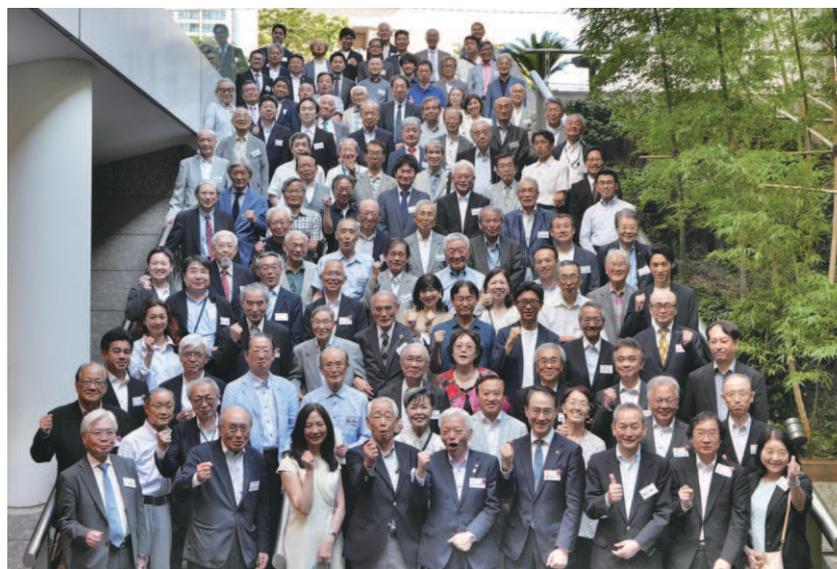
—ありがとうございました。

司会：奥山正昭(経昭44卒)  
文責：加藤菜々子(経令2卒)

## 東京支部並びに関東地区地域支部 連合会設立総会 130人が集い新たな門出を祝う

大阪公立大学校友会東京支部並びに関東地区地域支部連合会の設立総会が6月22日、東京都千代田区の東京グリーンパレスで約130人が参加し盛大に開催されました。公立大学法人大阪から福島伸一理事長、大学から櫻木弘之学長、校友会からは岡本直之会長らが出席、千葉、埼玉、横浜、湘南の各支部からもメンバーが駆けつけ、地域同窓会としては最大の同窓会組織誕生を祝いました。

総会ではまず大阪府立大学東京同窓会会長として統合同窓会の設立に尽力した山田昭正氏(府経昭43卒)が「多くの



一同に会し写真撮影に収まる参加者

方々にご参加いただき感無量。最大規模の同窓会として活動の充実を図り大学支援をしていきたい」とあいさつ。役員選出では山田氏が関東地区地域支部連合会会長兼東京支部副支部長に、新たな東京支部長兼連合会副会長に大阪市立大学同窓会東京支部長として同じく統合同窓会の設立に尽力した諏訪頼久氏(理昭45卒)が、選ばれました。

来賓あいさつで岡本会長は「役員の方々の献身的な努力で統合を成し遂げ心からお祝い申し上げたい」、福島理事長は「同窓生の皆さんの熱き思いに改めて感謝したい。大学も新たなステージに進み出しており、今後ともご支援を」、櫻木学長は「高い知性と豊かな人間性を持つ人材育成に努め、未来に向かって大学のブランドを高めていきたい」とそれぞれ祝辞を述べられました。

続いて国際社会経済研究所理事長の藤沢久美氏(生平元

卒)が「AIで変わる未来」と題して記念講演、28歳で起業して以来の自らの経験を語った後、AIについて「素晴らしいが危険。AIのルールを作るべき」と言い、「AIが当たり前の答えを出し、人間の知恵でそれを当たり前でない答えに変えていくことが大事」と語った。この後、懇親会を開催、東京支部並びに関東地区地域支部連合会の門出を祝いました。

2022年6月、市大、府大の同窓会が統合して校友会が発足したのを機に関東地区でも府大東京同窓会と市大同窓会関東地区5支部の間で11回、府大東京同窓会と市大同窓会東京支部の間で4回の打合せを積み重ね、今日の設立に至りました。会員数は連合会で約3500人、東京支部で約2700人。今後、両同窓会は他4支部とも連携しながら、一層の交流を深めるとともにITシステムの構築運用や会報の発行、研修会「中もず会」の開催、大学、在校生への支援等に取り組みます。

## 広島でも統合同窓会設立

大阪公立大学広島同窓会の設立総会が懇親会、新卒業生歓迎会を兼ね5月24日、広島市内のザ・ロイヤルパークホテルで開かれ、市大、府大、女子大の卒業生ら約50人が出席、大学から櫻木弘之学長、同窓会校友会から岡本直之会長が参加、新たな門出を祝いました。

大阪公立大学広島同窓会は、2022年4月に市大、府大が統合し大阪公立大学が誕生、新たに同窓会組織「大阪公立大学校友会」も発足したことから23年11月に「大阪市立大学有恒会広島支部」と「大阪府立大学広島同窓会」が出席して初

の懇親会(54人参加)を開き、今回の設立総会開催に至りました。広島県とその周辺の地域の住者、在勤者で市大、府大、大阪公立大学及びその前身校の卒業生、在学生、教職員(退職者も含む)らで構成。

総会では大阪府立大学広島同窓会会長の岩本宏氏(府経昭58卒)が大阪公立大学広島同窓会会長に、大阪市立大学有恒会広島支部長の井上道氏(法平3卒)が同同窓会副会長にそれぞれ選出され、岩本会長は「昨年7月には府大、市大の同窓会有志が集まり会則などを決定、素晴らしいスタートを切ることができた。今後も多様性に富んだ活気溢れる同窓会にしていきたい」と挨拶しました。



握手を交わす岩本会長と井上副会長



記念写真に収まる会員

学縁に育まれた信頼と実績

一般社団法人 大阪女子大学同窓会斐文会結婚相談室

ただ今 プレキャンペーン中 | 2026年6月30日まで

おかげさまで当相談室は2027年に創設60周年を迎えます。  
それを記念し、次のとおり実施しています。

入会金 10,000円 ← 20,000円

年会費 15,000円 2年間有効 ← 1年間有効

お申込み資格 ①大阪女子大学・大阪府立大学・大阪市立大学・大阪公立大学の同窓会会員および各大学現旧教職員  
②上記同窓会会員および各大学現旧教職員のご紹介による方々 ③当相談室における成り立ち・会員のご紹介による方々

〒532-0011 大阪市淀川区西中島4-4-25 フルーレ新大阪506号 開室日時 水・土・第1日曜日 10:30~16:30



お問合せはお気軽に Tel:06-6390-1518 <https://hibunkai-soudanshitsu.jimdosite.com/>

## 統合中京支部も6月に第1回総会開催 地域支部の統合「中京支部」発足

大阪公立大学校友会中京支部長代行(元大阪市立大学同窓会愛知支部長)

滋野公彦(経昭59卒)

**大学統合の受け止め**■大阪公立大学は2022年に設立されました。母校の更なる成長と発展を心より願っております。ただ一方、OBにとっては、伝統ある母校を大いに誇りに思っており、その名称についての思い入れも、ひとかたならぬものがあり、驚きを禁じ得ないというのが、当時の多くの意見だったかと思えます。

**取り巻く環境**■地域同窓会を取り巻く環境は、参加メンバー数などで厳しい状況になっている中、やがて「母校の名称」卒業生がいなくなることになり、また大阪公立大学の卒業生から見て、地域同窓会が存在しないという新たな課題を抱えることになりました。

**具体的な取り組み**■そこで校友会経由で、大阪府立大学名古屋校友会会長の伊藤聡様や同大陵友会名古屋支部長の堀江正樹様をご紹介いただき、相談を開始しました。より多くのメンバーが交流を深めることでより活性化できる統合を図っていくべき、との同じお考えをお持ちであることを知るこ

が出来ました。同時並行で両同窓会の幹事会そして総会でも議論、確認した結果、未来志向で統合をしていこうとの総意での円満合意を図ることができました。なお、市大愛知支部との統合団体は、大阪府立大学名古屋校友会です。

**統合した支部をスタート**■2024年4月1日から統合の「中京支部」にて、市大卒243人、府大卒879人、女子大卒14人、看護大卒138人の計1274人で活動をスタート。以降、役員幹事会はもとより、ゴルフ、麻雀、ビアパーティー、まち歩き、新年会等が続けており、6月7日に櫻井弘之学長、辰巳砂昌弘前学長、岡本直之校友会会長らにご列席を賜った第1回の総会開催を実施する運びまでとなりました＝写真。

これまで様々な関係各位およびメンバーのご理解ご支援があつて、実現できた統合と認識しており、深く感謝を申し上げます。これからもより多くのメンバーが参加でき、楽しい中京支部を目指してまいりたく、引き続きご支援のほどよろしくお願い申し上げます。



## 森之宮メインキャンパスが開設

大阪公立大学の森之宮メインキャンパスが9月24日に開設、同26日から学生や教職員らが真新しいキャンパスに集った。統合大学の象徴として森之宮メインキャンパス構想が浮上、当初は4月の開設を目指していたが、事業開始後に想定外の地下埋設物が発見されるなどしたことから半年遅れの完成となった。

9月24日には開設セレモニーが開催され、自治体の首長や文科省、大学、同窓会などの関係者ら約250人が出席し記念

式典が行われた。この後、京都大学iPS細胞研究所名誉所長・教授の山中伸弥氏が記念講演、続いて内覧会が催された。また各学部、学科でも開設記念講演会を行った。

大学では11月3日に例年開催しているホームカミングデーに変えて今年は森之宮キャンパスで「卒業生の集い」(仮称)を開催し、講演と交流会などを予定している。これで大阪公立大学は森之宮キャンパスに加え、杉本、中百舌鳥、阿倍野、りんくうの5キャンパスの配置となり、森之宮では基幹教育、文学部に医学部、生活科学部などの一部の学生、教職員の計約6000人が通うことになった。



森之宮キャンパス屋上よりの景色



大阪城が見える校舎13階の展望テラス



7階まで乗り継いでいけるエスカレーター

## 大阪・関西万博に大阪公立大学と飯田グループが共同出展館

10月13日に閉幕した大阪・関西万博に大阪公立大学は、飯田グループホールディングスと共同出展館を出展。「サステナブル・メビウス」の名を冠する外観や、館内にある「ウエルネススマートシティ」で来場者の心をつかんだ。

パビリオンの特徴は、何よりも美しい外観。西陣織を用いて制作された外装は豪華絢爛で、メビウスの輪がモチーフした造形も美しい＝写真＝。また、この外装と、その隣にある扇形の屋根は今年4月13日付でそれぞれ「世界最大の西陣織で包まれた建物」「世界最大の扇子形の屋根」としてギネス世界記録に認定された。

パビリオンに入場すると、中央に「ウエルネススマートシティ®」のジオラマが見える。長径24㍍、短径15㍍で作られた80分の1スケールの巨大なジオラマは、100万人が暮らす都市の中心部という設定。パビリオン壁面に沿って、共同研究を続けている住宅における未来のエネルギー像としての「人工光合成技術」と、生活空間で収集した健康データをAI解析によって未病の改善につなげる仕組みを体感できる「ウエルネス・スマートハウ

ス」の展示も行われた。そのほか、大学の先端研究の紹介映像や、学生が考える「未来住宅デザイン」も展示され、大阪公立大学の技術の粋が結集されていた。

文責：稲葉朔夜(法2、Hijicho)



スポーツ施設を創り続けて97年  
これからも新しい技術で  
社会に貢献します

横浜スタジアム

**OKU 奥アンツカ株式会社**

本社 〒577-0012 東大阪市長田東 3-2-7 TEL(06)6743-5050  
東京支店 TEL(03)3234-3100・近畿支店 TEL(06)6743-3366・西日本支店 TEL(092)501-0301

# 世界に通じる研究者

開学4年目を迎えた大阪公立大学の森之宮メインキャンパスが9月24日に誕生した。わが国最大の公立大学としてますます充実する研究者陣を紹介する。

## 自らがプレイヤーとなる 表現を通じて人々の幸福を



大阪公立大学  
都市科学・防災研究センター特任教授  
中川眞氏

アートやカルチャーといった表現は、人々の心に大きな影響を与える。そうした表現を、理論と実践を組み合わせる研究しているのが中川眞氏(74)だ。自らが民族音楽の奏者となって日本に持ち帰ることで、文化の接触と変化を観察するとともに、日本でも表現を柱として活動を行っている。多岐にわたる研究の基本は、人々の幸福を実現したいという思いだと語る。

様々な音があり、地域のコミュニティの中心であるお寺に生まれた。音楽を好み、音楽大学を志していたが、中学三年生のとき、病に倒れその夢は断たれた。高校にもほぼ通えなかったが、1970年に京都大学文学部へ入学。中学、高校では満足に学校へ通えず、大学においても安保闘争の混乱などによって授業がなかった。人から習うことが苦手になり、自ら課題を見つけて勉強するしかないと考えようになった。文学部を卒業後、大阪大学大学院へ進学、大学院ではベートーベンの交響曲を研究していたが、ある時、指導教員にインドネシアへ連れて行かれたことをきっかけに現地の文化や音楽に引き込まれた。研究対象を民族音楽に移し、西洋だけでなくアジアに目を向けていった。その後、民族音楽のほかサウンドスケープといった先行研究の少ない分野へ、理論と実践を組み合わせる研究を進めていった。

民族音楽研究では、主にインドネシアやタイを対象として実際に現地調査を行い、その社会的な意味、役割を明らかにしようとしている。基本的に、民族音楽は西洋音楽とは異なり理論書がない。そのため、研究するには実際に体得し演奏することが必要となる。インドネシアのガムラン音楽の研究では、自らがプレイヤーとなることで日本にも合奏団を立ち上げた。日本人が楽団のために作曲していくと、インドネシアとは異なる文化の展開が起こる。こうして文化の接触、変容までも研究することができる。と語る。

日本においては、生まれた地である奈良県を中心にフィールドワークなどの活動を行っている。1981年に奈良県十津川村の「十津川の大踊」を目にして感銘を受け、お

よそ10年かけて踊りを身に付けた。40年以上盆踊りの研究を続け、2023年に東京で開催された公演では演出などを担当したという。また同地で今年6月下旬から公開された野外彫刻〈ONKAI〉のプロジェクトプロデューサーとしても活動している。

京都市の文化政策にも参画している。市内の被差別地区などでアートを用いた共生社会の実現に取り組んでいる。地域に根付いた朝鮮文化や、皮革産業をはじめとして長く培われてきた産業が失われず、多文化社会の基盤として成り立つことが肝要だ。何もしなければコマーシャルベースのアートに隠れてしまうマイノリティの文化があるからこそ、そうした文化、表現を基軸に地域社会を作ろうとしている。



2023年、サントリーホールでの公演で

風景といえば視覚的なものを想像するが、正岡子規が「柿食へば鐘が鳴るなり法隆寺」と詠んだように音にも風景(=サウンドスケープ)がある。生活は音に取り囲まれ、大きな影響を受けている。私たちの周りには意識的ではないが、実は素晴らしい音の景色が広がっている。音に関心を持つことで、騒音対策といった環境意

識も高まる。今まで持っていなかった感覚で世界を見ることが、批判的な力の養成にもつながる。「音の豊かな世界によって単に幸せを得るのではなく、批判的なセンスを持つことで初めて前進できるのだ」と強調する。

今の社会は大きな歪みを抱えており、生きづらさを持っている人々が数多くいる。医療の発展が人々の病気を和らげ、薬の発明が病気を治すような展開を、アートやカルチャーでも広げていく。人々の心を癒し、慰め、つなげていく。こうした幸せを実現することが根幹にあり、伝統文化の保存は二次的なものだ。文化が絶えず動き続ける中で、「時に文化を動かす側に立つのは、社会の人々のさらなる幸福を少しでも実現したいからだ」と語る。

文責:藤本天駕(理1、Hijicho)

なかがわ・しん:1951年奈良県生まれ。75年京都大学文学部卒業、80年大阪大学大学院文学研究科芸術学専攻修士課程修了。91年京都市立芸術大学助教授、2001年大阪市立大学大学院文学研究科教授。11年同大国際センター所長、17年同大都市研究プラザ特任教授、22年から現職。1990年第8回京都府文化賞《奨励賞》、2006年インドネシア共和国外務省功労賞《文化交流》、24年京都市芸術振興賞など受賞。著書に『平安京 音の宇宙』(平凡社)、『サウンドアートのトポス』(昭和堂)、『アートの力』(和泉書院)など。

## 蓄積した歴史に“新しい風” 大阪の人文学研究の発展へ



大阪公立大学大学院文学部研究科教授  
岸本直文氏

考古学研究において古墳は当時の社会構造や文化を知る重要な遺跡である。古墳時代を研究する岸本直文氏(61)は畿内と各地の古墳群について、前方後円墳の形態分析から埋葬者の新たな政治的背景を探っている。また現在は、「人文学研究は蓄積型」を信念に、大阪公立大としての歴史文化研究拠点をめざす研究会に携わり、大阪の人文学研究の発展にも力を注いでいる。

### 考古学への興味

中学生の頃に『日本の歴史』(中公文庫)を読み、考古学の資料に触れた経験がきっかけで考古学に興味を持った。進学した高校に考古学の先生がおられ、発掘調査に参加する機会もあった。高校卒業後は京都大学文学部に進学し、博士課程の途中で奈良国立文化財研究所に就職し、5年間平城宮跡の発掘調査を行った。その後、兵庫県小野市の市史編纂で、当時大阪市立大学で古代史を研究していた栄原永遠男先生と仕事したこともきっかけとなり、大阪市立大学の研究室に入り、大学生時代から長く取り組んできた前方後円墳の研究を続けている。

### 研究内容—前方後円墳に新しい挑戦—

大阪大学の教授であった都出比呂志先生の講演を聞き、畿内にある王墓と各地の前方後円墳の形状の類似性から王権と地域勢力の関係の追求が可能であると気づき、全国各地の前方後円墳の形状比較を始めた。当時はまだ画像を重ねる技術がなかったため、印刷機で拡大縮小を繰り返して比較を行っていたという。それぞれの古墳に大きさの大小はあるものの、古墳と形状がほぼ一致することから、当時すでに設計そして測量の技術があったと考えられる。調査を重ねる中で、倭国王墓と思われる前方後円墳の系譜は大きく二つに分けられることが分かり、副葬品の違いから見ても、それぞれ役割が異なる王が二人存在したのではないかと考察する。

副葬品として弓矢や甲冑などの武具をもつものと、それを含まないものに分かれていることから、軍事的役割と祭事的役割を果たす王が存在していたのではないかと。また、古事記や日本書紀など別の資料からも、王が二人存在したことを暗に示すような記述も少しみられるとのこと。この考察はまだ学会では認められていないが、これまでの蓄積データに加えて、測量技術の向上により詳細なデータが得られるようになった今、自身の考察をさらに確かなものにしたいと語る。

## 大阪の人文学研究の発展に向けて

人文学研究は蓄積型であり、多くの人の協力が必要だ。現在文学部内の研究組織であった都市文化研究センターが今年4月に人文学学際研究センターとなり、大阪の歴史・文化研究を大きな柱として動き出しているところであるが、一方で人員削減を余儀なくされているのが現状だという。

大阪公立大学には大阪の歴史文化を研究する拠点があるべきで、大学にとっても大阪にとっても間違いなく必要で価値あるもの。2021年から日本史・国文学・美術史・



韓国・慶州の月城で学生に囲まれて

社会学との共同研究を進めており、大阪の歴史や文化を研究するセンターの設置に向けて取り組んでいる。これまでの研究の蓄積と研究資料の質・量から、新しい研究拠点ができれば、「今後、大阪公立大学が人文学研究の中心的役割を果たすようになる」と熱く語る。

### 若者に伝えたいこと

大阪が日本の中心となるのは2世紀以来のことで、大阪の歴史は古都と呼ばれる京都よりはるかに古い。大阪は「商売や食べものの街」と語られるが表面的な捉え方で、近畿地方の玄関口で人やモノの動きの結節点であり続け、長く厚い歴史があり、豊かな文化を発展させてきたことを知ってほしい。もっと大阪の歴史や文化、歴史遺産に目を向けてほしいし、その価値を大切にしてほしいと語る。学生にも「大阪の歴史の面白さをもっと知ってほしい」と切望し、「新しい風」に期待を込める。

文責:井川咲世(商2、Hijicho)

きしもと・なおふみ:1964年兵庫県生まれ。90年京都大学大学院文学研究科修士課程修了、91年同博士課程退学。91年奈良国立文化財研究所文部技官、96年文化庁文化財保護部記念物課文部技官、99年同課文化財調査官。2000年大阪市立大学文学部助教授、2001年同研究科助教授、16年同科教授、22年大阪公立大学文学研究科教授。著書に『倭王権と前方後円墳』(塙書房)など。

## 研究スタイルは「現場主義」 民間と協働する災害支援を!



大阪公立大学大学院文学研究科  
人間行動学専攻地理学専修准教授  
菅野拓氏

今年5月、改正災害対策基本法をはじめとする6つの関連法が可決、成立した。これらの法改正に大きく関わったのが菅野拓氏(43)だ。現実の社会問題を踏まえた改正で、日本の災害対応を大きく前進させる重要な転機になると、強い期待を寄せる。

幼いころから、システムに対する違和感に目敏かったと当時を振り返る。高校卒業後は動物の研究がしたいと京都大学農学部に進学。研究に取り組む中で、興味の対象は人間ひいては人間社会へと移っていった。そして公園設計を学ぶ中で、ホームレスの排除を目的に公共の公園が有料化されるという現実と直面し、開かれた空間が弱い立場の人々を閉め出す矛盾に強い疑問を抱いたという。

こうした現状の本質を理解するには制度の設計について知る必要があると考え、シンクタンクで3年間、コンサルタントとして勤務。その後、大阪市立大学で水内俊雄教授(当時)のもと、都市地理学の研究に本格的に取り組むようになる。

これまで災害現場では、十分な知識や技術、経験を持たない自治体職員が対応の中心を担ってきた。その結果、初動の混乱や避けられなかったはずの災害関連死が繰り返されている。行政がすべてを抱え込むのではなく、専門性のある民間の力を積極的に取り入れる新たな枠組みが必要だと強調する。

日本では多くの災害が発生し、その度に現場は混乱に陥っていたにもかかわらず、災害対応の在り方は根本的に見直されてこなかった。その背景には、災害という問題が持つ特有の性質があるという。大規模災害は、まれにしかも局所的に発生する。ゆえに被災自治体は毎回、経験のない状況と直面することとなり、経験が共有・蓄積されない。さらに外部はそれを対岸の火事として受け止めるため、現場の課題は制度に反映されづらい。

結果として、根本構造への理解を欠いたまま付け焼き刃の法改正が繰り返され、制度は問題を抱えたまま残存してきた。制度の歴史にまで遡り、その成り立ちや思想、法体系を深く読み解くことで、こうした構造を本質的に変える必要があると語る。

そのうえで、日本の災害対応を根本から見直すために重要なのは「被災者支援を社会保障の一環として位置づけること」と「民間の参画を制度に組み込むこと」だと指摘する。生存権や幸福追求権を保障する社会保障においては、制度設計と財源の確保は行政が担い、サービスの提供は

民間に委ねる形が一般的で、災害対応も同様のモデルを採用すべきだという。知識や技術を有する民間事業者やNPOが現場の支援を担い、行政はその動きを制度面と資金面で支えるという構図である。

その指摘が反映された改正災害救助法では、「福祉サービスの提供」が新たに救助として位置づけられた。救助に項目が加わるのは、約70年ぶりのこと。従来の制度は被災者に対して画一的な支援しか想定しておらず、一律で平等という建前が、かえって支援の質を下げる一因となっていた。

必要な支援は人によって異なり、また社会の構造や課題も時代とともに大きく変化している。しかし、支援は長らく旧来の枠組みに縛られ、避難所の環境は長年、劣悪なまま放置されてきた。その結果、最も支援を必要とする高齢者や障害のある人などが避難所にすら行けないという、本末転倒な事態を引き起こしていた。今回の改正は、そうした制度の狭間に取り残されてきた人々にも目を向け、人権を守り必要な支援を柔軟に届けるための大きな一歩といえる。



能登半島地震の際、石川県副知事室に設置された臨時部局「復興生活再建支援チーム」(2024年1月25日)

研究スタイルは一貫して「現場主義」。日本各地に足を運び、人々と対話を重ねてきた。「次の社会をつくる宝物は、研究室ではなく現場に埋まっている」と語り、現場での実践を通して、机上の理論では捉えきれない現実の課題に挑み続けている。若者には、自ら現場へ出向き、多様な意見を持つ人々と交流してほしいと呼びかける。そうした経験の中で問題意識が芽生え、自分が本当に向き合いたいテーマが見えてくるはずだという。

文責: 廣瀬 凜(法1、Hijicho)

すがの・たく: 1982年大阪府生まれ。2005年京都大学農学部卒業、22年から現職。社会問題などの解決が一貫したテーマで、その観点から困窮者支援や災害対応の現場で研究・実践を継続。近著に『つながりが生み出すイノベーション—サードセクターと創発する地域—』など。内閣官房「防災庁設置準備アドバイザー会議」専門委員、内閣府「被災者支援のあり方検討会」委員、石川県「令和6年能登半島地震復旧・復興アドバイザーボード」委員などを務める。

## OB・OG紹介

### 生活現場で表現活動 文化で社会に“新たな問い”を投げかける

文化活動家／近畿大学准教授 アサダワタルさん(法平14卒)

文化活動家として活動しつつ、近畿大学の准教授も務めているアサダワタルさん(46)。被災地でのラジオ番組や障がい者・高齢者施設などで、様々な形での表現活動を行っています。

#### — 現在の活動についてお聞かせください。

アーティストとして現場で表現活動をする際は、ライブハウスや美術館といった場所より、生活の現場で音楽活動をする事が多いです。例えば、福島県の復興公営住宅に通いながら、住民さんと一緒に懐かしい歌謡曲や演歌を通じて町の思い出を語り合う場作りをしていました。この取り組みは「ラジオ下神白」と言いまして、住民さんと一緒に曲を聞き、昔住んでいた町の思い出をラジオにして共有するアートプロジェクトとして、2016年から21年頃まで実施していました。その取り組みをCDとしてリリースしたり、ドキュメンタリー映画として上映したりしています。

他には、障がい福祉施設で障がいのある方と一緒に様々なワークショップをするという、表現活動と支援の狭間のようなこともしています。2022年から23年の2年間は、埼玉県東松山市にある高齢者のデイサービスセンターに滞在し、そのデイサービスセンターの歌を作るプロジェクトも行いました。何十人もの利用者さんに聞き取りをして歌詞を書き、毎日歌ってもらったんです。これは「クロスプレイ東松山」というプロジェクトで、YouTubeでも見ることができます。



品川区立障害児者総合支援施設「ぐるっぽ」での表現ワークショップで楽器演奏しながら交流を深めるアサダさん(左)

#### — 活動の原点についてお聞かせください。

私の中で大事にしているのは「面白い」ということです。私はあくまで町づくりや復興支援の専門家ではなく、文化の専門家です。原点に立ち返ると、大学卒業後、大阪の西成で日雇いの労働をされている方々とアート活動をしたことが思い出されます。当時、フェスティバルゲートにあった「ココローム」というNPO法人で働いていたのですが、野宿されている方が書いた詩を朗読して私が演奏したり、阪神・淡路大震災で被災された元ピアニストの方のリサイタルを手伝ったりと、ライブハウスでは出会わなかったような人たちの文化活動にすごく刺激を受けました。困っている人を助けるというよりは、一緒に楽しいことをする中で、相手に対する理解が深まることに気づかされたんです。それが20代半ばのことで活動の原動力になっています。

#### — 大学生活はどのようなものでしたか。

当時は勉強よりも課外活動に精を出していて、軽音楽部に所属していました。このサークルは、似た系統のサークルの中でも一番変なことをするサークルで、実験的でアバンギャルドな音楽を追求していました。私はマニアックな音楽志向が強かったので、迷いなくそこに行き、どっぷりはまりましたね。ドラムスクールにも通いつつ、ただ音楽がしたくて、BOX(部室)でずっと練習ばかりしていました。

#### — 今後の活動の展望をお聞かせください。

この夏に5年ぶりの単著を出す予定です。今まで話してきたことに近い内容なのですが、福祉や復興支援の現場など、様々な現場で感じる「当事者とは誰か」という問いについて書いた本です。福祉サービスや支援の制度には、「〇〇障がい者」や「被災者」というくくりがあります。しかし、一人ひとりと会うと決してそれだけではくれない、いろいろな背景や思いを持っている方々がいいます。かれらは支援されるだけではなく、助けてくれることも多く、そうした支援する、されるではない関係性をどう提案していくかについて書きました。

タイトルは『当事場をつくる』です。この「当事場」というコンセプトを掲げながら、どういう人たちと連携できるかというのが、今後のビジョンです。また、新たに福祉の現場だったり、もっと違う現場に関わったりする可能性もあると思っているので、自分の考えをまとめて出すことで、今後あるだろう未知なる出会いを楽しみたいと思っています。

#### — 同窓生や学生にメッセージをお願いします。

何より伝えたいのは、自分にとって核となる「大事なもの」が何なのかという問いを手放さないでほしいということです。例えば、町づくりの仕事をするというのはあくまで手段でしかなく、なぜ町づくりをしたいのかが答えられないといけません。その問いにちゃんと答えられるようになったら、それは違う職種の仕事でもいいかもしれないんです。

また、学生には「今大変だな、合わないなと思っていることは何のマイナスでもない。それは経験として自分にとって大事なものが分かってくる段階だから」と伝えていきます。しんどかったらもちろん休んで、じっくり考えればいいし、そこでダメだと自己否定に入らないでほしい。問いと向き合うこと自体が大事なプロセスなんだということは、ちゃんと伝えてあげたいと思っています。

文責：稲葉朔夜(法2, Hijicho)



# 空の旅への情熱が拓いたキャリアパス 挑戦と成長の軌跡

A.R.T. (Airline Recruitment Training) /  
アビオンエアラインスクール代表取締役社長

和田雅子さん(創院博平31修)



学会トランジットで訪れたドイツ・ミュンヘンにて

## 英語嫌いからCAへ、そして起業家へ

キャリアの始まりは意外なものだった。大学時代、英語が苦手でCAという職業に全く興味がなかったという。しかし、親しい友人が日本航空(JAL)のCAになったことに影響を受け、自身の「潜在的な興味」に気づく。当時の日本の航空会社は年齢制限が厳しく、新卒以外の採用はほとんどなかったため、目指したのは外資系航空会社。「英語が一番嫌いなのに、外資系なんて絶対に無理だと思った」と当時を振り返るが、友人からの助言と、航空業界専門の英語学校での猛勉強を経て、わずか数か月でシンガポール航空から内定を獲得。シンガポールを拠点に、世界を飛び回るCAとしての

キャリアをスタートさせた。

その後、日本に戻り結婚。自身の経験を活かし、「なりたい人を支援したい」という思いから、航空業界専門の教育・人材支援会社「A.R.T. (Airline Recruitment Training) /アビオンエアラインスクール」を設立する。当初はCA志望者へのスクール事業が中心だったが、外資系航空会社の日本進出支援や、日本人客室乗務員の採用コンサルティング、マニュアル作成、教育指導など、事業を多角化していく。

特に、カタール航空のコンサルティングでは、日本便のメニューや機内アナウンスのマニュアル作成にも携わるなど、その活躍の幅は広い。現在までに10社以上の外資系航空会社の採用代行を手がけ、スイスインターナショナルエアラインズ、マレーシア航空、ベトナム航空、中国国際航空、マカオ航空など多岐にわたる航空会社と取引している。



2019年3月の学位授与式では総代として博士号を授与された

## 経営者としての学びと博士課程での挑戦

会社経営が軌道に乗る中で、経営者としてのスキル向上に意欲を燃やす。最終的に選んだのは大学院での学びだった。新聞で偶然見かけた「創造都市」の広告に惹かれ、大阪市立大学大学院へ進学。そこで、アントレプレナーシップという概念に初めて出会う。当初は、修士論文のテーマであるマーケティング分野を目指していたが、より経営学に深く踏み込みたいという思いから、博士課程に進むことを決意する。

博士論文執筆は「想像していた以上にハードだった」と語るが、その裏には徹底した自己管理と、周囲を巻き込む力

があった。毎日最低8～9時間、研究に没頭する生活を送ったという。また、「やると決めたら周囲に宣言し、自分を追い込む」という自身の流儀は、多忙な中でも研究を継続するための原動力となった。社員にも業務を任せることで、かえって彼らの自律性を促し、会社の業績向上にも繋がったというエピソードは、彼女のリーダーシップを象徴している。

博士学位論文では、「コーポレートベンチャリングの選択メカニズム LCC創出の比較事例研究」であり、この研究は、航空業界での長年の経験と、新たな学びを融合させた集大成と言える。

### コロナ禍を乗り越えたオンライン事業の先見性

本人の先見性は、コロナ禍において真価を発揮した。修士課程で事業計画として立案していたオンラインビジネスは、当初はなかなか浸透しなかったものの、コロナ禍で一気に需要が高まり、同業他社に先駆けてオンライン教育への移行を成功させた。「コロナ禍と同じ状



今年6月、イタリア・ジェノバのジェノバ大学での学会発表

はスキューバダイビングのライセンス取得にも意欲を見せる。また、一般社団法人日本女性航空協会の理事として、同じく理事を務めるグライダー操縦士の友人と共に、海外での「冒険」を楽しむ。フランス、スペインでの旅や、アフリカでのサファリ体験など、その行動力は留まることを知らない。特に印象的だったのは、幼い頃に獣医になりたかったという夢。理系の頭ではなかったために諦めたというが、その動物への愛情は深く、現在も保護猫を家族として迎え入れている。旅を通して新たな知見を得ることや、自身の人生の経験を社会に還元することへの情熱は、尽きることがない。

### 後輩へのメッセージと未来への展望

CAを目指す学生や、これから社会に出る若者に向けて、「やりたいことはどんどんチャレンジしてほしい。行動しながら前に進んでいけば、何かしら新しい道が開けてくる」とメールを送る。そして、もし道が閉ざされたと感じたら、すぐに方向転換することも大切だとアドバイスする。

今後の展望としては、自身の会社であるA.R.T.の未来を見据えている。夢を叶えた卒業生が社員として戻ってくることが何よりの喜びだという彼女は、若い社員たちがやりがいを持って働き続けられる場所を維持するため、自身の経営スキルをさらに高めていく決意を語る。また、個人的には、世界中を旅し自身の目で見て、経験を深めたいという。航空業界への恩返しと生涯にわたる学びへの飽くなき探究心を持つ自身の挑戦は、これからも続いていく。

インタビュー・文責：安藤根八（創院平30修）



日本女性航空協会の理事たちと出かけたアフリカ・ボツワナのオカバンゴデルタで

況で博士論文を書いていたから、外出できないことには慣れていて」と語るように、その経験が緊急時の迅速な対応に繋がったという。対面でのサービスが主流だった航空業界の教育において、オンライン化の必要性を早くから見抜いていたことは、経営者としての優れた洞察力を示している。

### 旅と学びへの尽きない探究心

仕事だけでなく、プライベートでもアクティブな性格。学生時代から続けるスキーやマリンスポーツに加え、最近で

# 社長さんご紹介 株式会社ヨドコウ代表取締役社長 田中栄一さん（府経昭60卒）

## 創立90周年を迎え未来への展望と想いを語る



今年1月30日に創立90周年を迎え、新企業理念「咲かせよう。ひと、まち、みらい。」を制定し、10月からは社名を株式会社淀川製鋼所から株式会社ヨドコウに変更した。コーポレートアイデンティティを刷新し変革の真っ只中にある同社で、今年4月1日付で代表取締役に就任された田中栄一社長にお話を伺いました。

### 物置だけじゃない！ ヨドコウの幅広い事業



「ヨドコウ」という「ヨド物置」のイメージが強いですが、その他の事業内容を教えてください。

当社は1935年、淀川の河口に位置する現在の大阪工場の地で創業しました。主力は、高炉メーカーからホットコイルという母材を調達し、薄く延ばして表面処理を行い、めっき鋼板やカラー鋼板を製造する鋼板事業です。これらの鋼板は身の回りの家電製品や建材製品などに素材として使用されます。また、「ヨド物置」でおなじみのエクステリア事業や、鋼板製の屋根材・壁材を製造する建材事業はこれらの鋼板に付加価値を産み出す事業です。JR大阪駅の大屋根やヨドコウ桜スタジアム（長居球技場）の屋根は当社が施工まで担当しました。その他、グレーチング（鋼製みぞぶた）や産業用のロールを製造する事業などを通じ、人々の暮らしや社会を支えています。90周年を記念して木村拓哉さんをブランドアンバサダーに起用した企業CM「おさまるな。ヨドコウ」をご覧いただいた方も多いのではないのでしょうか。

### 学生時代の「縁」がヨドコウへ導く

「田中社長の学生時代についてお聞かせください。」

私は1962年に大阪府で生まれ、少年野球、中高ではハンドボール部に熱中しました。清風高校を卒業後、大阪府立大学経済学部に入りました。大学時代は友好祭の実行委員に没頭し、中百舌鳥キャンパスの和室に寝泊まりするほどでした。今年は、久しぶりに当時の仲間と一緒に友好祭を訪れましたよ。ゼミは、浅羽良昌教授の『アメリカ経済史』でした。

就職活動では、実は当初他の業界を志望していましたが、思うようにいかず、あわてて学生課に就職相談に行きました。ヨドコウからの採用募集があると聞き、ここからはトントン拍子で面接が進み採用となりました。縁があったのでしょうか。

### 営業畑で培った経験と海外での挑戦

「入社後の仕事内容についてお聞かせください。」

入社から26年間は鋼板商品の営業に従事しました。2014年からはクーデターで混乱するタイのバンコクに、19年からはコロナ禍の中国安徽省合肥市に、それぞれ3年半ずつ現地法人の社長として駐在しました。帰国後は、経営企画部門で経営計画の策定などに携わりました。

### 「縁」が繋ぐ社会貢献



「社会貢献活動にも積極的だと伺っています。具体的にどのような活動をされていますか。」

ホームスタジアムの屋根工事を担当したご縁で2021年からセレッソ大阪のトップパートナーになっています。学生さんに当社を知っていただくきっかけのひとつになっていると思います。また、芦屋市に「ヨドコウ迎賓館」（旧山邑家住宅）を所有し一般公開しています。近代建築の巨匠フランク・ロイド・ライト設計の国指定重要文化財で、昨年には竣工から100年を迎えました。縁あって当社が所有してから約80年になりますが、建築業界のみならず広く社会に貢献できるよう、これからも建物の保存と活用に努めていきます。

### 「挑戦と変革」をテーマに、 100周年、さらにその先へ

「ヨドコウの今後の展開や社長としての想いについてお聞かせください。」

現在、資本コストや株価を意識した経営の実現に向け、創立100周年、さらにその先を見据えた長期ビジョンの策定を進めています。今後は、「挑戦と変革」を経営テーマとして、既存事業に留まらずM&Aやアライアンスなどにも力を注いでいく考えです。企業を取り巻く環境は急速に変化しており、難しい舵取りも迫られますが、人との「縁」を大切に、社員が幸せを実感できる会社づくりに取り組んでいきたいと思っています。

「来年3月には、大阪公立大学の第1期生が卒業しますが、学生に何か一言あればお願いします。」

是非、ヨドコウと一緒に、ひと、まち、みらいを咲かせていきましょう！



インタビュー：津戸正広(府経昭修48卒)  
栗原政二(府経昭52卒)  
文責：稲葉朔夜(法2、Hijicho)

# 化学の力で世界をゆたかに、変化の激しい未来を イノベーションで切り開く



1915年創業のデンカは、石灰窒素製造に始まり、現在は独創的な技術でさまざまな素材を手がける総合化学メーカーです。「化学の力で社会をよりよくする」を理念に、世界トップ級の製品を次々と生み出し、業界内で独自の存在感を放っています。

この企業のトップを務めるのが石田郁雄社長。堺市出身で、府立泉北高校から府大に進学。実家から通いやすかったことが決め手だったと語ります。学生時代は「ユースホステルクラブ」に所属し、仲間と40時間かけて沖縄を訪れるなど、思い出深い日々を送ったそうです。

化学メーカーを志望していた石田さんは、先輩の紹介でデンカの会社説明会に参加。最初に内定をもらったご縁を感じて入社を決めました。1985年入社以来、大阪支店での営業を皮切りに、本社（東京）勤務やドイツ駐在7年間など約20年間、クロプロングムやアセチレンブラックの営業に携わりました。帰国後は本社の電子材料分野で16年間勤務し、2021年からは人事や経営企画に関わり、24年4月に代表取締役社長に就任されました。

特に印象に残っている仕事として、1993年に起きた東海道新幹線でのバラスト跳ね上がり事故を挙げる。ニュースを見て「自社製品で対策できるのでは」と発案し、JRに提案。すぐに試験まで実施されたが、結果は不採用。事業部長に大目玉を食らったが（笑）、「自ら挑戦した経験として今も強く心に残っている」と語る。

現在は、デンカの次の成長に向けて経営計画「Mission 2030」を掲げ、収益力の回復と新規事業創出に取り組んでいる。スペシャリティ、メガトレンド、サステナビリティの3要素を兼ね備えた競争力ある事業を「3つ星事業」と定義、事業基盤を強化中。最近ではAI半導体向け素材が注目製品となり、今後も新しい用途向けの製品開発を加速していきたい。小さな成功の積み重ねがデンカの強みであり、社会課題とメガトレンドに応える世界に雄飛できる競争力ある製品を生み出していきたいという。

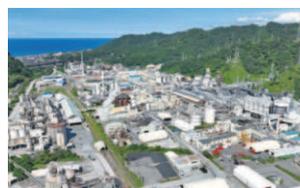
経営の柱のひとつとして、人財育成と組織風土の変革にも注力中。社風をよりフラットでオープンに変えるため、上下関係を超越して呼び合う「さん付け運動」を徹底し、タウンホールミーティングやランチミーティングを通じて社員の声を直接聞く機会を設けている。また、社員全員が新規事業を提案できる「イノベーションデイ」では賞金制度もあり、挑戦を後押ししている。

愛読書や影響を受けた人物としては、ソニー創業者の盛田昭夫氏を挙げる。著書『MADE IN JAPAN—わが体験的国際戦略』を読み、日本発の技術が世界を変える力になると感じたという。座右の銘は「知行合一」。知識だけでなく、実行することの重要性を日々意識しているそうです。

最後に、後輩たちへのメッセージとして「大学統合により、公立大は国内でも有数の存在になった。世界を意識して、ぜひグローバルに活躍してほしい。デンカでも後輩の入社を歓迎します。社長を超えるつもりで来てください（笑）」と力強く語ってくれました。

## インタビューを終えて

石田さんの言葉には「知識を行動に移す」という信念と、社員の挑戦を支える温かい姿勢が印象的で、冗談も飛び交う和やかなインタビューでした。変化の激しい時代にあっても、未来を見据えて確かな歩みを進める石田さんの姿は、私たち公立大出身者にとっても大きな励みとなります。貴重なお話をありがとうございました。



株式会社デンカの青梅工場

インタビュー：菅田勝（府工昭46卒）  
文責：加藤菜々子（経令2卒）

# 偉人列伝

## メタセコイア研究者—三木茂博士と肥田美知子博士

大阪公立大学杉本キャンパス、中百舌鳥キャンパス、附属植物園には、立派なメタセコイアが植生されている。メタセコイアはヒノキ科の針葉樹(裸子植物)で、中生代白亜紀の中頃(約9000万年前)までには出現し、化石でしか見ることができなかった。1939年、三木茂博士が常緑樹のセコイアやマヌスギとは異なる落葉樹の植物遺体(化石の一種)を発見して、41年にメタセコイアと命名して学会発表した。48年に中国湖北省から現生するメタセコイアが報告され、化石でしか知られていなかった植物が現存していたことから、この発見は「生きた化石」として世界的に注目され、三木博士の名前は全世界に知られることとなった。メタセコイアを発見し命名された三木博士とその門下生、肥田美知子博士(大阪府女子専門学校・家政理学科卒)の足跡を辿った。

■三木茂博士(1901-1974)は、香川県木田郡奥鹿村(現:三木町鹿庭)出身。子どもの頃のエピソードに、登下校の道すがら全ての植物をスケッチした、親に買ってもらった植物図鑑を全て暗記したなどがある。盛岡高等農林学校(現:岩手大学農学部)を卒業し、石川県の農林高校教諭になるが、1921年に京都帝国大学理学部に入学し、25年卒業、後に助手、講師になられた。47年に大阪学芸大学(現:大阪教育大学)教授、49年より大阪市立大学教授(64年退官)となり同大学理学部附属植物園園長(以下、附属植物園)を務められた。

また、大阪自然科学研究会(大阪市立自然史博物館友の会の前身)の会長を務め、自然史科学の普及活動に貢献された。メタセコイア発見の功績により、朝日文化賞(1950年度)を受賞された。三木博士が整理したメタセコイア化石標本、圧縮化石(プレパラート標本)等457点は、大阪市立自然史博物館に収蔵され、大阪市指定文化財(2017年度)となっている。生家跡には「三木茂生家跡」碑石(三木町建立)、1999年開館した三木茂博士資料館(三木博士の論文やメタセコイアの化石、牧野富太郎博士からのほがきなど貴重な資料を展示)がある。郷土の偉人三木博士の功績を広く伝えるために、没後50年記念でたかはしゆみこ編「未来へ伝

えたい メタセコイアは平和の木」(2024)、福永信也監督ドキュメンタリードラマ「メタセコイア・三木茂博士物語」(同)が製作された。

■肥田美知子博士は、1937年に大阪府女子専門学校家政理学科を卒業され、高等学校教諭、光華女子専門学校、大阪府女子専門学校助教授を経て、大阪女子大学助手、講師となり、三木博士研究室にてメタセコイアの研究で博士号を取得され、大阪女子大学助教授を経て、教授となり退官後は名誉教授になられた。博士論文『形態学的特性並びに葉の成分からみた近縁種属の研究』(1961)で、メタセコイアの位置づけを新たな視点から行い、スギ科をコウヤマキ亜科、コウヨウザン亜科、マヌスギ亜科、スギ亜科の四つに分類すべきと提示された。その当時、大阪女子大学には肥田博士のもとに

生物クラブがあり、野外実習では、三木博士夫妻、肥田博士も参加され、大阪女子大学学生が、三木博士から直接に指導を受けていた。

肥田博士は歌人でもあり、恩師三木先生を悼む歌「メタセコイアの冬芽ふくらむ春の日に名付けたる師はみまかり給う」「メタセコイアの梢の辺りにいますか

と空仰ぎみる告別の日」(1974.12)と恩師三木先生の教えを継承する強い志の歌「吾もまた師のみ心を継ぎゆかん落穂ひろいの心がまえで」(1964.7)が『肥田美知子先生歌文集』(大阪女子大学生物研究室[葉月会]発行)に収録されている。

アメリカの植物学者が昭和天皇に贈られたメタセコイア苗木は、今も皇居で育成されている。1950年、三木博士はメタセコイア保存会(事務局は附属植物園)を設立し、アメリカから100本の苗木を受け取り、メタセコイア保存会を通じて西日本の小・中学校等に配布され、大阪市立阿倍野小学校でも大木に成長したメタセコイアを見ることができる。

上村修三(商昭53卒、創院平26修)

参考文献:斐文会報(2020.5岡野浩「メタセコイア研究で世界初の博士号 肥田美知子先生(専10家)とメタセコイア」)



田中記念館前にあるメタセコイア⑥と説明板

# 大阪医史蹟巡り

## ⑭ 江戸時代の大阪を巡る医者たち

### 元禄期

幕府は大阪中之島に米本位制に拠る全国各藩からの米俵を集積して貯蔵分配したが、次第に商人たちの手によって金子に拠る取引となり、更に米の原物は見本だけに限られ、獲れ高を先取りして「米相場」の場となった。大和川と淀川が合流する大川の川筋には各藩の印を描いた米蔵が林立して活況を呈していたが米の消耗や劣化変質が進んだため次第に米蔵は姿を消していった。

当時の大阪(オオザカと呼んだ)には多くは水路による各地の物産が集積して物品の種別ごとに商人が回遊して商売上の区画を形成した。薬のまち「道修町」がその一例である。

当時の医者には国家資格がなく誰でも医者になれたが、評価は命がけだったので庶民の医者を選ぶ目は厳しかった。庶民の「るつぼ」だった町大坂に多くの医者たちが集まった。古林見宜・北山壽安・寺島良安・戸田旭山・永富独嘯庵・麻田剛立・中井履件(医者ではなかったが顕微鏡の記載をした)・小石元俊・橋本宗吉・伏屋素遯・大矢尚斎・各務文献・山片重芳・藤田顕蔵・斎藤方策・



中天游・中伊三郎・野呂天然・中川修亭・高良斎・岡研介・日高涼台・賀川南龍・原老柳・緒方郁蔵・大村益次郎ら、どの一人を採っても長い人物伝となる人材が結集した。

この人たちの一人ひとりを追ってみようと、まずは「古林見宜」から資料を追っています。重複や脱落は避けられませんが、学術誌ではないので気楽に書くと思っています。

田中祐尾(医昭44卒)

heritage in Osaka

around the medical



心に届く旅  
**阪急交通社**  
 Direct to your heart

### 阪急交通社グループの多彩なサービス

- |        |      |      |        |      |
|--------|------|------|--------|------|
| 国内旅行   | 海外旅行 | 団体旅行 | 物品販売   | 個人旅行 |
| ビジネス渡航 | 地域振興 | 訪日旅行 | 送迎サービス | 教育旅行 |



ハンキューさんに聞いてみよう！  
 旅行のお悩みズバツと解決!!

阪急交通社は阪急阪神東宝グループの一員です

## OBOG公務員と 公務員志望学生交流会

公務員志望の学生と近畿圏自治体公務員や国家公務員として勤務する府大・市大OBOGとの交流会が6月28日、杉本キャンパス高原記念館で開かれました＝写真＝。「職業としての公務員」について学生の理解を深める機会とすることを目的に2014年以来毎年開かれており、今年で12回目。



会場では、OBOG全員の話を聞く全体会、続いて小グループで学生の質問に答える分科会(計2回)、最後に軽食をともにしながら、先輩後輩がより親しく話し合う懇談会と4時間にわたって、学生47人、現職公務員9人(うち市大OBOG8人、府大OB1人)、大学・同窓会関係者など計60余人が、たいへん意義ある土曜日の午後を共に過ごしました。

参加学生からは「肩ひじ張らない雰囲気の中で志望先選定にたいへん役立った」「他の学生のキャリア形成に向かう態度が勉強になった」「どの職場も魅力的でこれからの学習をがんばろうと思った」などの感想が寄せられました。先輩・学生間のみならず、学生間の交流にも役立ったようで、同窓会としてやりがいのある交流会でした。来年も同じ時期に開催する予定です。公務員としてお勤めの皆様方ぜひご参加ください。

文責：扇田豊(法昭50卒)

## 卒業生のための ビジネス交流会開催

1980年医学部卒業後、脳神経外科教授、医学部長などを歴任された大畑建治特任教授を講師に迎え8月2日、梅田の文化交流センターで約50人の参加により開催しました＝写真＝。冒頭の自己紹介では学生時代に少林寺拳法部、野球部に所属し、麻雀等々の遊びはすべてこなし、勉強をしたことがないものの、脳神経外科医になった瞬間に遊びは全てやめ、医学の道に邁進したとの逸話を披露。脳外科の高難度の手術には冗長性が必要と説き、無駄も必要であり豊かな選択肢を持つことが重要と強調されました。



また脳外科のカンファレンスは全て英語で行い、国際的な医療技術向上、共有にも繋がったようです。創造力ある社会の醸成のための音楽教育の必要性や英国の取り組みとの違いについても言及されました。示唆に富む話と実績の数々が質疑応答の多さに繋がります。グループワーク、そして懇親会へと参加者にとって有意義な時間を過ごすことができました。

文責：梅村晋一(法昭55卒)

## 「八木孝昌さんを偲ぶ会」 開催

児玉隆夫(理昭41卒)

昨年10月19日に急逝された八木孝昌さんを偲ぶ会が2月24日、ホテルアウィーナ大阪で開かれました。「偲ぶ会」にはご家族および八木さんの生前の幅広い交流を反映して、大学生協、大阪市立大学、帝塚山学院、帝塚山派文学学会、Dream五代塾、住吉村常磐会、奈良シニア大学、五代友厚記念事業委員会、万葉集勉強会、高学館および個人を加えて88人の方の参加をいただきました。

会では児玉から八木さんが大学生協を退職されて以降の活動と功績を、大学コンソシアム大阪の立ち上げ、『帝塚山学院100年史』編纂、『新・五代友厚伝』(PHP研究所)執筆、高等学校日本史教科書における五代記述変更に至る経緯、『五代友厚 名誉回復の記録』(たる出版)執筆を軸に報告し、その後休憩をはさみながら参加者の方々から八木さんについての思い出を語っていただき、和やかな雰囲気の中で八木さんへの思いを共にしました。



「八木孝昌先生を偲ぶ会」で弔辞を述べる児玉隆夫氏

未来を拓く創造力  
**SANTECH**  
Since 1913  
主要生産品目

- 世界中の自動車に使われる鍛造部品
- 水素ステーション用高圧水素タンク

サムテック株式会社 〒582-0027 大阪府柏原市円明町1000-18

私たちは、分譲マンションの管理会社です。

ハートでサポート、うれしいサービス。

マンションライフをすみずみまでサポートします。

すみずみ 澄住サポート株式会社  
マンション管理業登録 国土交通大臣(2)第034319号

代表取締役 北野 好浩 (市大文・地理学コース 1990(平成2)年卒)  
〒177-0042 東京都練馬区下石神井1-9-21 TEL 03-3904-6980  
E-mail sumizumi-annai@sumizumi.co.jp  
ホームページ 澄住サポート 検索 http://www.sumizumi.co.jp/

## 大阪健康長寿医科学センター開設にむけて

大阪公立大学医学部附属健康長寿医科学センター病院長予定者  
(大阪公立大学医学研究科心臓血管外科学前教授)

柴田利彦(医昭60卒)



大阪健康長寿医科学センターは現在、2027年5月の開設に向けて工事が進んでいます。地下鉄四つ橋線玉出駅の近くに大阪市立住吉市民病院がありました。老朽化により2018年に閉院されました。また、吹田市の万博記念公園のすぐ近くには認知症・健康長寿医療を主として行う大阪市立弘済院附属病院が現在もあります。すでに築57年経過していることから、この弘済院附属病院の機能の継承・発展を目的として、住吉市民病院跡地に大阪健康長寿医科学センターを開設することになりました。この施設には病院、老健施設、研究所が設置されますが、病院と研究所は大阪公立大学医学部が運営を担当、病院と同じ建物内にある老健施設は公募により民間団体が運営委託される予定です。



大阪健康長寿医科学センターの完成図パース

高齢化社会により認知症への対応が大きな問題となっています。認知症というのは、いろんな原因で生じる症状の「総称」であり単一の病気を表してはいません。最も多い原因が「アルツハイマー病」です。この病気は脳内に「アミロイドベータ」という物質が蓄積し脳に障害が生じるものであり、短期記憶がなくなったりして徐々に日常生活が困難となっていきます。認知症が進むと様々な周辺症状(行動・心理症状: BPSD)が生じ、徘徊、幻覚、暴力、不潔行為などを起こすようになります。『マンガでわかる!認知症の人が見ている世界』(文響社)という本は認知症とその対応方法を知るには大変わかりやすいと思います。

認知症を改善させる治療は今までいくつも試されてきましたが、対症的な治療がほとんどであり「原因を除去し治す」ことはできません。最近使用可能となった薬剤(レカネマブ、ドナネマブ)は前述のアミロイドベータを脳から除去する効果があり治療薬として期待されています。しかし、この薬はアルツハイマー病初期段階の患者さんのみが対象となり、認知症状

の悪化を緩徐にする効果しかありません。すなわち、「認知症にならない」ようにする魔法の薬ではありません。しかし、この薬剤への皆さんの関心は大きく、今後も同様な薬剤が開発されていくでしょう。

ところで、健康長寿医科学センター病院(以下健康長寿病院)は120床という小規模の病院ですが、認知症および健康長寿医療に特化した大学附属病院として位置づけをしています。健康長寿とは一体なにを意味するのかを考えると、「高齢になってもその人なりに社会生活を過ごす」と解釈できます。そのためには、身体機能(足腰、視覚、聴覚、嗅覚、摂食など)と、脳・精神機能の2つが保たれている必要があります。この両機能が保持されていることを私は健康長寿(ナイスエイジング)と呼んでいます。この病院はこの

2つの機能を保持するために、様々な診療科の診断・治療およびリハビリテーションを行う計画をしています。ただし、病院規模の問題もあり、がん治療や高度な侵襲的な治療(脳・心臓など)は行わず、これは阿倍野にある医学部附属病院あるいは近隣の病院と連携する方針でいます。

もう一つ大事なことは、認知症の早期発見と発症予防です。これは併設する研究所が主体となり、認知症を早期に検知するバイオマーカー(指標)や画像解析など行う計画です。研究所長には量子化学技術研究開発機構から脳イメージング解析の第一人者である樋口真人氏を医学研究科病因診断科学教授として招聘し、認知症についての突き抜ける研究を目指しています。

開設まであと1年半となり、現在、開設準備室では建築、人材、運営の準備に励んでいます。



弁護士法人 CHUO SOGO LPC  
中央総合法律事務所

なか つかさ  
弁護士 中務 嗣治郎

(法学部 昭和34年卒) URL <https://www.clo.jp>

(大阪事務所) 〒530-0004 大阪市北区堂島浜一丁目1番27号  
大阪堂島浜タワー15階  
電話(06)6676-8834 FAX(06)6676-8839  
(東京事務所) 〒100-0011 東京都千代田区内幸町二丁目2番3号  
日比谷国際ビル18階  
電話(03)3539-1877 FAX(03)3539-1878  
(京都事務所) 〒600-8008 京都市下京区四條通烏丸東入ル  
長刀鉾町8番 京都三井ビル3階  
電話(075)257-7411 FAX(075)257-7433



## 新副学長・新特命副学長・新学科長

### 副学長(研究戦略・国際戦略担当)・理事 徳永文稔

このたび、理事・副学長(研究戦略・国際戦略担当)を拝命しました医学研究科の徳永文稔と申します。本学は日本最大の公立大学として全国的な認知度を高め、入試志願者においては国公立大の中で全国最多を誇るまでに至りました。今後、高度研究型総合大学として更なる飛躍を目指してまいります。研究力や国際性の面では、なお大きな課題が残されています。微力ではございますが、これらの課題解決に全力で取り組んでまいり所存です。何卒ご支援、ご指導のほど、よろしくお願い申し上げます。



### 副学長(学術研究・研究公正担当) 寺北明久

このたび副学長(学術研究・研究公正担当)を拝命いたしました、理学研究科の寺北明久(専門:分子生理学)です。研究者にとって外部資金の獲得は重要な課題であり、本学においては研究の国際化も強く求められています。こうした状況を踏まえ、微力ながら本学の学術研究の一層の発展と研究公正の推進に努めてまいり所存です。何卒よろしくお願い申し上げます。



### 副学長(国際交流担当) 高橋雅英

このたび国際交流担当副学長を拝命いたしました工学研究科の高橋雅英です。グローバル化が進展する中で、本学が世界に開かれた教育・研究拠点としてさらに発展できるよう、学生・教職員・地域社会と連携し、多様性を尊重する国際的な環境づくりに取り組んでまいります。今後とも温かいご支援を賜りますよう、よろしくお願い申し上げます。



### 副学長(ダイバーシティ、広報担当) 森澤和子

このたび副学長(ダイバーシティ、広報担当)に就任いたしました工学研究科の森澤和子と申します。本学のすべての学生ならびに教職員が、多様性を尊重され、一人一人が能力を発揮して学び、働くことができる包摂的な環境の実現をめざし、尽力してまいります。また、本学の研究・教育・社会貢献における様々な活動を多くの方に知っていただけるよ



う、積極的な情報発信に努めてまいります。引き続きご支援のほどよろしくお願いいたします。

### 副学長(社会共創担当) 樋口由美

副学長(社会共創担当)を拝命しましたリハビリテーション学研究科の樋口由美と申します。2024年度までは研究科長として、大阪公立大学の発展に微力ながら尽力してまいりました。今後は新たに就任された櫻木弘之学長のもと、大学の重点戦略の一つとして掲げられた「産学官民共創と社会貢献」を推進すべく、学内外の皆さまと共に挑み、研究成果の社会への還元を果たしてまいります。どうぞご支援のほどよろしくお願い申し上げます。



### 特命副学長(入試・高専連携担当)・高専校長 秋田成司

4月より特命副学長(入試・高専連携)に加え大阪公立大学工業高等専門学校を拝命しました。本校は2027年度には現在の寝屋川市から中百舌鳥キャンパス内への移転が決定しています。この機会に、大学との連携をさらに強化し、高専学生が大学の最先端研究に触れる機会を増やし視野を広げることで、より高度な専門性と創造性を育てていきたいと考えています。皆様からの益々のご支援とご協力をお願い申し上げます。



### 理学研究科長・理学部長 小嶋正敏

このたび、理学研究科長を拝命いたしました。理学研究科では教員のキャンパス移動が進み、多くの教員が杉本キャンパスに結集しました。長年受け継がれてきた自由闊達な気風を継承し、基礎研究を重視した国際的な研究科としてさらなる飛躍を遂げるべく、全力を尽くしてまいります。最先端の研究成果を創出し、人類の科学知識の蓄積に貢献するとともに、急速に進化する科学技術を支えていきます。今後も、社会の多様な分野で活躍できる科学人材の育成に力を注いでまいります。皆様の温かいご支援を賜りますよう、心よりお願い申し上げます。



### リハビリテーション学研究科長 横井賀津志

リハビリテーション学研究科は、2025年9月、森之宮キャンパスへの移転を機に、新たな展開を迎えます。移転に先立ち、UR森之宮ビルに開設したWell-being共創研究センターも本格稼働し、地域住民の健康と幸福を支える取組を推進中です。部局・行政・産業界・医療界・地域社会との共創を深化させ、リハビリテーション学の研究成果を医療・保健・福祉の現場へと還元していきます。すべての人のWell-beingの実現に向け、教育・研究両面から挑戦を重ねてまいります。



## 博学連携講演会と 公開講座を開催

大阪公立大学と大阪市博物館機構、大阪市文化財協会は2月1日、博学連携講演会「『昭和』の大阪一都市の歴史、大学の研究」を杉本キャンパス1号館で開催しました。

本講演会は、大阪市立大学(現大阪公立大学)の歴史と研究の諸相を、都市大阪の近代史のなかで読み解いていく内容で構成され、学内外6人の専門家が様々な観点から最新の調査研究成果を紹介しました＝写真㉔＝。また、講演会参加者を対象に「大阪市立大学140周年記念展示室」見学会も同日開催し、大学の研究成果である大阪の自然と歴史に関する資料を公開しました。

2025年度は、12月に「大阪の遊廓」をテーマとした博学連携講座、2026年3月に「豊臣時代大坂研究の最前線」をテーマとした博学連携シンポジウムを企画しています。詳細が決まり次第Webサイトでご案内いたします。皆さま、どうぞご期待ください。



さらに大阪公立大学公開講座として「高島屋と南海電鉄～進化する『なんば』の芸術・文化創造の歴史とまちづくり～」をテーマに3月21日および27日の2日間にわたり、大阪公立大学I-siteなんば2階で開催しました＝写真㉕＝。

講師には、高島屋史料館研究員の高井多佳子氏および南海電気鉄道株式会社グレーターなんば創造部部長の寺田成氏をお招きし、「なんば」の芸術・文化の歩みと今後の展望についてご講演いただきました。本学も都市シンクタンク

という視点から参画し、高島屋・南海電鉄とともに、文化共創の拠点としての「なんば」の進化とまちづくりの可能性について理解を深める貴重な機会となりました。

2025年度につきましても、さまざまな公開講座の開催を予定しております。詳細は以下のURLよりご確認いただけます。

<https://www.omu.ac.jp/lifelong-learning/course/>

産学官民共創推進室(社会連携担当)

## 高い就職率は公大にも継承

今年春に卒業・修了した学生の就職率(就職者数/就職希望者数)は、大阪市立大学98.2%、大阪府立大学98.1%、大阪公立大学(博士前期課程)97.8%であり、例年通り高い数値となりました。また大学院への進学率(進学者数/卒業者数)は、理工系を中心に70～80%と前年比漸増の傾向であり、学生たちの高い研究意欲を表す数値となっています。

大阪公立大学も開学して4年目。いよいよ来年には、大阪公立大学の学部・領域生が初めて社会に飛び立ちます。就職環境早期化の中、学生は着実に就職活動に取り組み、自身の志望する進路に向けて順次内定を得ている状況が伺えます。

キャリア支援室によるキャリア・就職支援についても、学生が通学するキャンパスに関わらず、就職支援イベントや個別相談等オンラインも活用して幅広く支援に努めています。9月に開設しました森之宮キャンパスにおいても、今までの経験と各企業・自治体等との人脈を活かして、学生のニーズに寄り添い支援に努めてまいります。

卒業生の皆様には、本学学生を引き続きご支援くださいますようよろしくお願い申し上げます。

(キャリア支援室長 村田孝二)

## オープンキャンパス2025開催

「オープンキャンパス2025」が8月7日から10日まで各キャンパスで開催されました。開催中は雨風が懸念されましたが天候も何とか持ちこたえ、杉本キャンパス・中百舌鳥キャンパスでは9、10日の2日間の開催で1万人以上、全キャンパス合わせて1万5000人以上もの方々にご来場いただきました。

各会場では学部説明会や個別相談

会、模擬授業など各学部の特色を生かした大阪公立大学ならではのプログラムや、入試についての説明会、学生自治会による相談会など多種多様なプログラムが実施され、多くの方にご参加いただきました。

また、webサイト上では学部・学域紹介動画など、現地以外でもお楽しみいただけるコンテンツを掲載しており、オープンキャンパス終了後には現地で実施したプログラムも一部、動画などでご覧いただけるように順次更新も行っております。ご協力くださった皆さま、どうもありがとうございました。(入試課)



中百舌鳥キャンパスで

## 森之宮キャンパスの魅力を 学生が発信

### —MORINOMIYA Journal—

今秋に新しく誕生した森之宮キャンパスにまつわる情報やその魅力を、学生の目線でお届けするMORINOMIYA Journal。学生、教職員だけではなく地域の方々など、森之宮キャンパスに関わるすべての方に向けたメディアです。

まだまだ謎の多い森之宮キャンパスについて、学生編集室が取材します。森之宮キャンパスの基本情報から移転準備に関する記事まで、さまざまな情報をWebサイトやSNSでお届けしていますので、ぜひご覧ください。(広報課)



【Webサイト】



OMU\_PRSTUDENTS  
Instagram

## 「国際交流宿舎」を 杉本キャンパスに整備

現在の国際交流宿舎(上野芝)に代わる新たな宿舎を、杉本キャンパス人工合成研究センター南側の敷地に2027年度の供用を目標に整備します。

この宿舎は、外国人留学生数の増加に対応するとともに、外国人留学生と日本人学生が共に暮らし多様な価値観・文化を学び合える場を提供することを目指しており、居室数は136室を予定、全室に家具・家電を備えるほか、生活の基礎となる食事も提供します。



「国際交流宿舎」の完成予想パース

その他、宿舎に常駐する寮長・寮母により入居者の安心・安全を守り、さらにRA(Resident Assistant)制度の導入により、入居者の日々の相談に対応したり宿舎内のイベントを企画するなど、活発な交流を図ります。(学生課)

## クラブ紹介

## 大阪公立大学総合情報サイト ハムバス

ハムバスとは、大阪公立大学生に必要な情報を見やすくまとめたwebサイトです。このプロジェクトはX(旧Twitter)にて個人で投稿されていた「ハムだまめちしき」の投稿主と、公認団体である大阪公立大学新聞Hijichoが共同で制作・運営しています。

今年3月に始動したばかりの活動ですが、大阪公立大学生が無料で使える施設やサービスの情報や学内施設の紹介、大学のイベント情報などをまとめた「ハムだまめちしき」をジャンルごとに見ることができ、履修登録のやり方や学内マップなど新入生向けの情報も充実しています。

今後は学内団体の紹介や森之宮キャンパス関連の情報、大阪府内のおすすめスポットやキャンパス周辺の飲食店

まとめなども追加される予定です。

ハムバスの運営メンバーは大阪公立大学新聞Hijichoで募集しています。興味がある方はぜひお声掛けください。

都我秀成(商2、Hijicho)



ハムバスをスマホで見たときの画面

## 戦没学友の碑「献花の集い」 開催

太平洋戦争の学徒動員で多くの若者が戦場に駆り出されて今年で80余年。私たちの先輩は1000余人が動員され、判明しているだけで59人の方々が学問への夢を絶たれて、戦場に散ってしまいました。(校友会HP)

杉本キャンパス1号館時計台南側にある「戦没学友の碑」の前で、「献花の集い」が4月11日に開催されました＝写真＝。ご遺族代表と大阪公立大学の櫻木弘之学長、児玉隆夫元学長、大阪公立大学校友会の岡本直之会長、学生代表により執り行われ、好天に恵まれ、桜の満開のタイミングとも重なり、特に今年は終戦より数えて80年に当たり、感慨深い式典になりました。

大西基勝(商昭52卒)



## 博物館実習Ⅰ企画展 報告書発刊

博物館実習Ⅰ企画展「杉本と大学—阪和線がつなぐ過去と未来」(1/27～31)が杉本キャンパス高原記念館にて開催され、その企画展報告書が大阪市立大学同窓会協賛により発刊された＝写真⑤＝。報告書は第1章阪和線、第2章大学と学生生活の構成で、第2章では、「市大創立と学舎返還」「大学紛争」「校舎・施設整備」「第1回大学祭」「ボート祭」「学生歌、逍遙歌」「寮歌祭」等が紹介されている。



なお、2023年1月に開催された博物館実習Ⅰ企画展「朝ドラと歩く公立大学—場所、人、そして未来へ」も報告書が発刊されている＝写真⑥＝。この二つの報告書は、大阪公立大学文化交流センター談話室にて閲覧することができる。

上村修三(商昭53卒)

## 大阪の歴史文化研究拠点を めざす講演会開催

「大阪の歴史・文化の価値を考える—大阪公大に歴史文化研究拠点を—」講演会が3月29日、杉本キャンパスの大阪市立大学140周年記念講堂で開催された＝写真＝。講演会冒頭で、今後の学際



的共同研究として①大阪の芸能文化の総合的研究②講談および講談本の文化史的研究③上方浮世絵分析と地誌の文化史的研究④「大阪市史編纂資料」による大阪の近代産業の歴史的研究⑤大阪の地籍図・古地図・航空写真による景観・土地利用の復元的研究⑥大阪の自然災害と復旧、があるとの報告があった。

この講演会は、大阪の歴史と文化の

価値を考える絶好の機会となったとし、森之宮キャンパスに移った文学研究科では、人文学学際研究センターを設置し、大阪の歴史・文化の研究拠点となることを目指す。

上村修三(商昭53卒)

## 金井一頼特任教授が 退任記念講義

大阪公立大学大学院都市経営研究科の金井一頼特任教授の退任に伴う記念講義が2月22日、大阪市中央区の綿業会館(重要文化財)にて開催されました。当日は都市経営研究科の修了生や関西の研究者ら約60人が参集し、金井教授の研究活動を中心に振り返りつつ、その功績を称える意義深い場となりました。



大阪大学名誉教授でもある金井一頼先生を慕う教え子たちが全国から集まった退任記念講義

記念講義では、「厄介な問題と“非”常識に経営(学):“非”常識経営学のすすめ」というテーマで行われ、常識の経営学を超えた“非”常識の経営学の創造等、理論と実践における貴重な知見が共有されるとともに、参加者の皆さんは教授の長年の研究への熱意に改めて感銘を受けました。

講義後には修了生や関西のみならず全国から集まった研究者等が交流を深め、都市経営研究科の今後について新

たな展望を切り拓く非常に貴重な機会となりました。

太田光昭(都市院令4修)

## 山田氏が瑞宝中綬章を受章

山田優(やまだ・まさる)

大阪市立大学名誉教授

春の叙勲におきまして瑞宝中綬章をいただき、大変光栄に思っています。これは、ひとえに大阪市立大学で永く教育研究に携わることができたお陰です。大学院修士課程を修了後いったん大阪府庁に技師として勤めましたが、すぐに大学に教員として戻り、以来38年間お世話になりました。土木工学の範疇ながら異なる分野を専攻された3人の教授の研究室に所属し、広く種々の分野の科目について勉強することができ、教授に昇任後、他の教育機関の卒業生を含む多くの人達を研究室に迎え、多岐にわたるテーマで教育研究活動を行うことができました。多数の博士論文の指導もさせていただきました。



また学外での各種委員会、審議会の委員も務めることになりました。特に運よく高速道路等のインフラ整備が盛んに行われた時期であり、建設材料の供用性能の評価や建設工事における資源循環技術の開発研究は注目されたように思います。それらの活動は多くの学生、院生および学内外の研究者、技術者とともに行ったものであり、皆さんに心より感謝申し上げます。今後も、大阪公立大学がますます恵まれた教育研究の場となりますようお願いしています。

(大阪公立大学Webサイトより引用)

## 万博花火を見る会

大阪公立大学商学部経営学研究科アジア・ビジネス研究プログラムのメンバーが集い5月31日、南港コスモスクエアの高層マンション17階ラウンジで万博花火を見る会が開催された。企画したのは大学院経営学研究科グローバルビジネス専攻の王東明教授。

当日は、同研究プログラムの在學生、修了生と創造都市研究科アジアビジネス専攻OB約20人が午後5時から集まり、王先生の手作りの料理を楽しみながら歓談し、午後7時半頃の花火を待った。王東明教授の料理の腕は素人離れしており、テーブルいっぱいになんだ料理を結局は全品食べきれず、10時頃まで和気あいあいとアジビグループの新旧交流を楽しんだ。

安藤根八(創平30修)



万博花火に歓声をあげる参加者たち



食べきれないほどの王東明教授の手作り料理が並んだ食卓を囲み、歓談するメンバー

『信頼・価値観・知恵袋』……金属屋根工事業  
を得る の共有 としての立場

Sun Create System

サンクリエイティブ工業株式会社

相談役 矢野 憲 治 (法S46卒)

〒299-0101 千葉県市原市青柳北4-2-5

TEL. 0436-98-3777 FAX. 0436-98-3888

携帯電話:090-3314-8399 mail: yano@suncrtem.co.jp



## ドキュメンタリードラマ 「メタセコイア・三木茂博士物語」 上映会の開催

元大阪公立大学大学院理学研究科教授  
大阪公立大学理学部同窓会役員  
三田村宗樹

メタセコイアは美しい針葉樹形をなす高木で、大阪市立大学の出身者にとって大学生活の思い出の情景の一部として残っている方も多いのではないのでしょうか。大学に馴染みの深い「生きている化石」のメタセコイア研究で著名な三木茂先生を描いたドキュメンタリー・ドラマ「メタセコイア・三木茂博士物語」制作が先生の故郷の香川県木田郡三木町の有志により企画されました。ドラマ制作のため、クラウドファンディングによる資金調達が始まりました。三木先生が大阪市立大学理学部生物学科の教授、理学部附属植物園の園長を務められたこともあり、大阪公立大学理学部同窓会もこれに賛同し、資金提供いたしました。

ドラマは、2024年3月に完成し、三木町での試写会が行われています。そこで、ゆかりのある大阪公立大学でも上映会を行うべく準備を進め、メタセコイアの絵画・写真展を同時開催とし、7月5日に田中記念館で参加者138人を得て開催することができました。

ドラマでは、三木先生の少年期～青年期が三木町の自然景観や社会情勢とともに描かれ、先生がどのように自然の観察眼を身につけられたか、植物化石研究へ進まれたか、などが紹介されています。これに加えて、かつてセコイア属やスイショウ(水松)と誤認されていた植物化石を、三木先生がどのようにしてメタセコイア属として修正し、常緑樹のセコイアと違って落葉樹であることを認識したのかを、アメリカ・中国の植物研究者の連携によるメタセコイアの現生株発見の経緯についても解説されています。

ドラマ上映のあと、制作・監督を務められた福永信也氏から、ドラマ作成のための資料収集や三木町の住民参加・自然景観活用に関するエピソードが語られました。さらに、植物化石研究者で元大阪市立自然史博物館学芸員の塚腰実氏から、三木先生のメタセコイア研究の真髓とメタセコイア保存会

の活動について解説が行われました。上映会のあと、田中記念館の周囲に植えられているメタセコイア・セコイア・ヌマスギの見学会も実施し、盛会のうちに終了することができました。

この上映会開催にあたって、後援いただいた大阪公立大学校友会、大阪公立大学教育後援会、有恒会、大阪公立大学附属植物園友の会の方々には、広報・資料提供などでご支援いただきました。また、協力団体として学生クラブの新聞部(Hijicho)、起業部、青桃会、写真部には、広報・資料提供、展示をお願いし、当日の運営にあたっていただきました。ここに御礼申し上げます。

## メタセコイア写真・絵画展も開催

ドキュメンタリードラマ「メタセコイア・三木茂博士物語」上映会と同時開催で「メタセコイアの写真・絵画展」が開催されました=写真。

メタセコイアは旧大阪市立大学理学部生物学科で教授を務められた三木茂先生が発見、命名した植物であり、「生きた化石」として親しまれているほか、大阪公立大学を象徴する植物としても知られています。本展はそんなメタセコイアの魅力を、様々な角度から捉えた作品を通じて紹介するものです。



会場には学生の作品から同窓生の作品までが広く展示され、メタセコイアに覆われた車道の写真や、交差法により立体的にメタセコイアを捉えられる写真、画家たちの手によって種々に表現されたメタセコイアの絵画が並びました。多くの方が来場し、堂々たる樹形から繊細な葉の表情、光と影が織りなす情景まで、多様な表現で描かれたメタセコイアの美しさを堪能しました。

稲葉朔夜(法2、Hijicho)

## 生活科学部同窓会

### 会員システムID発行します!!

生活科学部同窓会では会員システムに専用ページを開設し、様々なサービスを提供することになりました。会員様向けのお知らせではログインしていただいた方のみ閲覧可能な情報を掲載する予定です。今回は特別企画として、昨年2024年度開催の公大生活科学部同窓会総会&特別講演の記念誌をご覧ください。ぜひとも多くの会員の皆様にご覧いただきたいので生活科学部同窓会HPの【会員ID依頼フォーム】からお申込みください。

<https://omu-seika-alumni.com/>

(QRコードからも閲覧できます。)



記念誌にはご講演いただいた長岡恵様(昭和60年児童学科卒・昭和61年大関朝潮関と結婚)による「在学時代から相撲部屋おかみまで～長岡恵さんの出会いと軌跡～」=写真=をお読みいただけます。その他サービスとして会員情報(住所、勤務先など)の登録やメール、郵送先の変更ができます。

### 大阪市立大学 生活科学部同窓会 最後の総会を11月3日開催決定!!

この度、大阪市立大学生活科学部同窓会は大阪公立大学生活科学部同窓会と統合することとなりました。そのため市立大学生活科学部同窓会としての総会は最後となります。

また9月には森之宮キャンパスが開学し、令和7年度後期より食栄養学科がいち早く移転しました。そこで生活科学部同窓会では最後の総会に杉本で過ごした思い出を語る会を催すこととなりました。卒業生で本学部の教員を務められた懐かしの先生方、奥田豊子先生、小西洋太郎先生、菊崎泰枝先生をお招きして、トークショーを開催いたします。

総会後には特別企画として生活科学部棟内ツアーとして、教室や実験・実習室巡りをする予定です。皆様のお越しをお待ちしております。

日時:2025年(令和7年)11月3日(月祝)13時~16時30分予定

会場:大阪公立大学杉本キャンパス生活科学部棟大会議室

なお、お申込み方法や追加情報は順次生活科学部HPに掲載いたします。最新情報をご確認ください。

### 生活科学部・研究科卒業生・修士生の新任教員ご紹介コーナー ご縁に導かれて、また大阪の地へ

このたび、2023年より生活科学部 居住環境学科にご縁を

いただき、豊橋技術科学大学から異動してまいりました袁継輝と申します。

私は中国・黒竜江省の出身で、2007年に日本へ留学し、大阪市立大学大学院にて居住環境工学を学びました。修士課程修了後も引き続き大阪で研究に従事し、15年に博士(学術)の学位を取得いたしました。気がつけば、日本での生活も18年目を迎え、長く大阪の地に支えられてきたことを改めて実感しております。

これまで中国国内の大学や、大阪大学、豊橋技術科学大学など日本各地の大学で研究と教育の経験を重ねてまいりましたが、このたび再び大阪市立大学(現・大阪公立大学)の生活科学部に帰ることができたのは、まさに「ご縁」の賜物と感じております。

現在は、都市の熱環境やエネルギー消費、気候適応に関する研究に取り組んでおり、「より快適で持続可能な都市環境とは何か?」を学生とともに探求しています。2023年からは「都市・建築環境工学研究室」を主宰し、国外の大学や研究機関との連携も進めながら、多角的に教育・研究活動を展開しています。

大学時代の恩師や友人、そして今ともに学ぶ学生たちとの出会いが、私の研究人生を大きく育ててくれました。これまで支えてくださったすべての方々への感謝を胸に、今後は私自身が次世代を支える存在となれるよう、一層励んでまいります。今後とも、どうぞよろしくお願いたします。

袁継輝(生平27修)

### 学びのバトンをつなぐ

2009年に人間福祉学科に入学し、学部4年、前期博士課程2年、後期博士課程は社会福祉協議会で働きながら長期履修制度を使って6年在籍しました。それでも仕事と研究の両立は容易ではなく、単位取得退学してから1年後に博士論文を提出して学位を取得しました。

その後、社会福祉法人で2年働き、24年に教員として着任しました。高校1年生で志望校を市大生活科学部に決めるときには、まさか12+1年もそこに通い、さらに働くことになることは夢にも思っていませんでした。自分がこの大学で学んだソーシャルワークという学問を、後輩に教えることができているご縁に感謝しています。

学生時代に感じていた生活科学部の居心地の良さは、教員として戻ってきても変わらないままでした。

お世話になった先生方や事務の方と一緒に働ける毎日はとても充実しています。これからもこの生活科学部のあたたかい雰囲気を楽しみながら、研究・教育に励みたいと思います。

山東愛美(生平25卒)



## 校友会2025年度総会を開催

大阪公立大学校友会の2025年度総会が6月14日、中百舌鳥キャンパスの学術交流会館で開かれ、今年度の学部新入生の同窓会入会率が昨年度の87%から42%に半減したことを受け、今後対応策を大学と協議していくとしたほか、引き続き



支部など地域同窓会への総会補助などを行っていくことを決めた。

総会では岡本直之会長が「広島や東京などでそれぞれの課題もありながら両大学の地域同窓会統合が進んでおり、大学の応援団としての勢いを増している」と挨拶、来賓の公立大学法人大阪の福島伸一理事長は「来春には初の学部卒業生が誕生する。今後も大阪の成長と発展に貢献し世界に輝く大学を目指したい」と語った。

講演会では櫻木弘之学長が「Where are you from?-Ya, I'm from cosmos!(あなた、ご出身は?はい、宇宙です!)」をテーマに講演=写真=、引き続き懇親会を開催した。

## 有恒会定時社員総会開催 新理事長に相良暁氏就任

一般社団法人有恒会の2025年度定時社員総会が5月31日、杉本キャンパス学術情報総合センターで開催され、議決権行使書提出者を含め約80人が出席、総会終了後の理事会で相良暁氏(商昭58卒)を新理事長に選出した。

総会では岡本直之理事長が「有恒会の一般法人化も果たすことができ、会長、理事長として7年間務めさせていただ

た。今後は新しい理事長の下、大学の最大最強の応援団として有恒会を盛り上げていただきたい」と挨拶、来賓として出席した櫻木弘之学長は「長い歴史のある両大学が統合して4年目に入り、4回生まで揃った。これからは未来に向かって躍進したい。ぜひ応援を」と呼びかけた。

この後、総務財務部会、事業部会、広報会員部会、有恒編集委員会からの決算、予算案、報告、方針案などが審議され、今春の新入生からの入学金などがネット徴収となったため、同窓会会費納入者が激減したことから、大学に改善を求めていることになった。引き続き懇親会が開催され、新しい体制の門出を祝った。

またこれに先立ち大阪府・市の特別顧問として万博誘致にも関わった大阪公立大学研究推進機構特別教授で同大学観光産業戦略研究所長の橋爪伸也氏が「いのち輝く未来社会のデザイン2025年からはじまる未来に向けて」と題して講演、万博の現状や課題について語った。

相良氏は大阪市立大学卒業後、小野薬品株式会社入社、2008年代表取締役社長、2024年4月から代表取締役会長CEO。現在大阪商工会議所副会頭を務める。

相良理事長以外の役員は次の通り。(敬称略)

副理事長=津戸正広(府経昭48修)、宮川庄一(経昭45卒)▽常務理事=北村吉文(経昭48卒)、藤山純一(法昭51卒)、頓花修二(商昭54卒)、梅村晋一(法昭55卒)、亀井信吾(商昭52卒)

文責:都我秀成(商2、Hijicho)



懇親会で挨拶する相良暁新理事長

**進取と共創。ガスで未来を拓く。**  
**The Gas Professionals**

**大陽日酸**

日本酸素ホールディングスグループ

**大陽日酸株式会社**  
 東京都品川区小山1-3-26 www.tn-sanso.co.jp

**物流を通じて豊かな明日に挑戦**

**株式会社 杉村倉庫**

杉村グループ: 杉村運輸株式会社  
 杉村興産株式会社

本社: 〒552-0013 大阪市港区福崎1丁目1番57号  
 TEL:06-6571-1221 FAX:06-6574-8595

東京事務所: 〒103-0027 東京都中央区日本橋1丁目2番10号  
 TEL:03-3272-2441 FAX:03-3272-2446

営業所: 関西圏4営業所、首都圏5営業所

ホームページ: <http://www.sugimura-wh.co.jp/>

## 都市経営・創造都市研究科 同窓会総会など開催

大阪公立大学大学院都市経営研究科・創造都市研究科同窓会の「令和6年度同窓会総会・修了お祝い会」を3月30日、ガーデンシティ大阪オリオンで開催、総会には98人が出席し、記念講演として大阪経済大学経済学部准教授で創造都市研究科都市公共専攻都市政策修了1期生の白田利之氏に「社会人大学院の学びの広さと・出会いの素晴らしさ」について語っていただきました。同窓会総会では修了生に同窓会の説明と、令和6年度の活動報告、議案では同大学院の改組を予測して会長ほか役員の方の2029年までの基本的継続の承認をそれぞれ決議いたしました。



社会人同士の親交も温め合った修了生・OB・OGら

修了お祝い会には89人が参加、貴重なお言葉を都市経営研究科長の高野恵亮先生と有恒会の梅村晋一常務理事にいただきました。懇親会では各専攻修了生とOG・OBとの良き交わりもあり、社会人同士の親交もこの大学院の特徴でもあり大変深まりました。

上村修三(創院平26修)

## 商友会の「入会チラシ」が好評

大阪公立大学商学部の同窓会である「商友会」では、商学部の先生方と連携し、入学式に先立つ4月2日の「商学部オリエンテーション」の場で、新入生に「商友会入会チラシ」(A4両面)＝写真＝と、商友会記念誌『商友会に集いて』を配布させていただいたところ、早速10人を超える新入生から入会希望申し込みがあり、その反響に喜んでます。

今後も商学部の先生方と連携を密にし、学生活動支援、商学部イベント支援、ニュースレター発行、卒業生の交流活動に全力を尽くします。

(商友会副会長:大西基勝、事務局長:村上芳子)



Sound Mind, Sound Body

アシックス

## 陵友会通信

### 校友会の協力で校友懇話会を開催

陵友会支部は大阪公立大学校友会の協力で3月1日、大阪公立大学文化交流センターで校友懇話会を開催、講師にコスモ法律事務所の阪井千鶴子弁護士(法昭57卒)を招き、「弁護士という職業」をテーマに講演していただきました=写真㊦。

まず最初に「なぜ弁護士という仕事に従事する事になったか」「弁護士になってどういう仕事を今までやってきたか」、また「今はどういう仕事を行っているか」などについて説明され、弁護士の業務としては、法律相談や顧問としての業務が多く、訴訟手続きのウエートはあまり大きくないということでした。

これまでは、破産手続き、民事再生手続き、家事調停委員、大阪公立大学経営審議会外部委員等々の仕事を行ってきたと語られました。

講演の後半は、出席者からの質問に答えられ、質問の中には「弁護士の選び方」の質問があり、知り合いの紹介などがよいのではないかと答えられました。

また、7月19日にも大阪公立大学文化交流センターで校友懇話会を開催、大阪市立大学名誉教授の下崎千代子氏(商昭52卒)に「日本人の働き方改革と企業改革の同調性～転職・副業・育休・リスク/AI等々で従来の働き方が変化～」と題して講演していただきました=写真㊦=。当日の参加者は33人。



下崎氏は日本の高度経済成長を支えた中核は、日本の人事システム(終身雇用・年功制)で、これは従業員の高いモチベーションをもたらし、労使の強力な信頼関係を築き、社会の

安定をもたらしたが、主役は壮年期正規社員の男性という負の側面も存在。しかし、コロナ以降、数々の働き方の変化が生じており、20～30代の若い世代は、しがらみに関係なく自己の満足を尊重する方向に舵を切ったかみえるといい、「これからは、転職・育児休暇・テレワーク・副業・リスク/AIなどが、社会を新たな方向に変革する原動力になるのではないか」と期待を込めて語られました。

栗原政二(府経昭52卒)

### 陵友会支部常任理事会・理事会を開催

陵友会支部の2025年常務理事会・理事会が6月11日、ハービス大阪で開催され、24年度会計報告と監査報告、25年度予算と事業報告、常任理事・理事の退任、会則の一部変更について、津戸正広会長の説明を受け、原案通りすべて承認されました。



会則の一部変更などについて説明する  
津戸正広会長

また5月31日の名古屋陵友会総会において、名古屋陵友会の解散が提案され、承認された旨の報告がありました。

今後、月例懇話会、校友懇話会を土曜日の午後(昼間)に「大阪公立大学文化交流センター」や「I-siteなんば」なども活用して実施する。また4月1日に、陵友会支部事務局を中百舌鳥キャンパスの学术交流会館(C1棟)に移転したと報告がありました。

栗原政二(府経昭52卒)

人と電気をつなぐ



**ニシムラ株式会社**

代表取締役会長 蔵岡一彦  
(昭和40年 経済学部)

本社/〒601-8104 京都市南区上鳥羽角田町32  
TEL: 075-681-2331 FAX: 075-671-1041  
営業所: 京都府7 滋賀県5 東京都1 愛知県1 大阪府1 兵庫県3  
<http://www.nsmr.co.jp>

## 森下会計事務所

所長 税理士 **森下 豊**  
(商学部 昭和47年卒)

事務所 \_\_\_\_\_  
〒532-0011 大阪市淀川区西中島5丁目12番8号  
新大阪ローズビル 303  
TEL. 06-6308-2802 FAX. 06-6308-2151  
E-mail: morisita@apricot.ocn.jp

## 知と心のリレー



### 学而不思則罔 思而不学則殆

堤文希(文Ⅱ平14卒)

女性が定年まで働けるというので就いた教諭という職。以下はそこでの雑感だ。

学校現場は、内心個人的な対立を生みかねない様な状態だ。人は「しんどさ」があると攻撃的になったり不寛容になったりするが、このぎりぎりの耐えられるしんどさを決定しているのが行政だ。

例えば、大阪府は必要最低限しか教育環境に金を出さない。未来を作る学校で働く教員のパソコンにかけた費用は7億円ほどである。結果、PCのメンテや、スペックが低くて起こる不具合で、教員は時間を奪われている。半年間の

み開催の万博造りには何百億円も拠出。私より二十歳ほど若い万博建設現場

で働いていた生徒に給料を尋ねたら、私の1.5倍以上は貰っていた。

比べれば、すぐに行政の方針は見える。教職員の定員数や給料システム、税制度。心理的余裕がなくなり、メジャーやマイナーの対立、マイクロアグレッションが繰り返される。子育て、介護する同僚を応援したい気持ちがある一方で「独身者差別」と被害妄想を持ちたくなるような環境なのだ。

最近、教材作りよりも、他に時間をかけよ、と言われる。「教育」に力を入れることすら机上の空論になるか、残業で必死にカバーしようと「遣り甲斐搾取」されるか、のどちらかである。

学校が有れば良い方だ。3年連続定員割れした高校は廃校である。もはや、

大阪府は教育機関すら消耗品扱いなのね。現場の教員の消耗、疲弊感、追われ感は半端ない。

政治に直結する「市民」を育てるはずの学校。政党教育と政治教育の違いが判らない教員が、子どもを育てる。多くの「市民」意識の少ない子どもが社会人になり、空なる言葉を振りかざす政治家たちに自分たちの生活を蝕まれていることを気づかぬまま、また次世代を育てる。そこに居るのは、論語読みの論語知らずたちだ。

学びは「知」で、思いは「心」。学びても思う余裕のなさ、思ひても学ぶ時間のなさに、問題は生まれている。その問題は学校だけなのだろうか。

(注)「学而不思則罔、思而不学則殆」は論語で「本を読んで勉強するだけで、自分で考えることを怠ると、物事の道理が身につかず何の役にも立たない」

## 女性部会(WPC)ニュース

### お食事会・展覧会観覧と総会を開催

WPC春のお食事会・展覧会観覧と令和7年度総会を5月17日に開催しました。この日は朝からあいにくの雨模様でしたが、総会+お食事会の会場「梅蘭・中之島フェスティバルプラザ店」は地下鉄肥後橋駅から直結だったので、雨に濡れることもなく会場にアクセスでき、好評でした。

参加者は16人、皆さん無事に会場にたどり着き受付を済ませて、午前11時30分からスタート。2つの円卓に分かれて着席し、WPC総会が始まりました。総会では活動報告、活動予

定、予算収支報告が承認され、引き続き飲茶ランチに移行。参加者はそれぞれの円卓で近況報告や思い出話を花を咲かせつつ、3種類の中国茶と飲茶や揚げ春巻き、エビチリ、名物の焼きそばなどを堪能しました。お味もボリュームも大満足で、デザートは杏仁豆腐まで完食しました。

ランチが終わり、中之島美術館に移動する頃には、雨はあがり青空になっていました。同美術館の前庭に展示されている猫のオブジェの前で記念撮影をした後、開催中の「上村松園生誕150年記念展示会」を堪能しました。

文責：鍋島美奈子(生平6卒)



中之島美術館の前庭に展示されている猫のオブジェの前で記念撮影



全国対応!  
総会員数  
約10万人  
★★★

創業35周年の  
**ロイヤルマリッジ**は  
医師・弁護士・公認会計士  
公務員・一部上場有名企業 他  
**1年以内成婚率70%!**

10 0011(08)  
ims認定  
全会員各身分証明提出済

ハイクラス結婚相談所  
**RM** ROYAL MARRIAGE

☎0120-941-707  
営業時間:11:00~19:00  
定休:火・水(祝営業)

理想の方との幸せなご成婚をお手伝いいたします!

# 論壇・随想

## ミュオグラフィアートプロジェクトに取り組んできて

中島裕司(法昭55卒)

約8年前、東京大学の田中宏幸教授から最先端科学技術のミュオグラフィをアートで表現するプロジェクトを作りたいという話が来た。理由は単純である。人類にとって非常に重要なミュオグラフィのことに誰も興味を持たず、周知されていない。アートは身近であり誰もがそれなりに関心を持つ。アートを通してミュオグラフィを広めようということである。それから少しして別のルートで関西大学客員教授の角谷賢二先生と会うことになり、3者がつながった。あれから僕なりの方法でミュオグラフィのことを調べて、専門であるアート作品に仕上げる。ただ絵を描くだけでなく、一つのプロジェクトとしてまとめることも必要なので展覧会や講演やワークショップなど開催してきた。東大からの基金も出ているので、大げさに言えば小さな国家プロジェクトでもある。

やり始めた限りは、途中で投げ出せないし責任はある。あれ以来試行錯誤しながら何百枚もの絵を描いた。多くの賛同するアーティスト仲間と共に毎年グランフロント大阪での展示会。過去には多摩美術大学美術館、関西大学博物館、市内の画廊での展覧会もした。それと並行してイタリア大使館やフランス大使館等での講演。サイエンスアゴラではハンガ



アマテラスをイメージした油彩画

リー大使館主催のワークショップも3回行っている。シンフォニーホール大阪では、イタリア作曲家のミュオグラフィシンフォニーの演奏会とその前座として舞台上で指揮者、作曲家、角谷先生と僕の4人が登壇してミュオグラフィに関する話もした。

8年間動き続けてきた甲斐があって、ミュオグラフィアートプロジェクトは大きくなってきている。

昨年、大阪公立大理学部で藤井俊博准教授と会ってミュオグラフィの話をした。彼はミュオグラフィの元とも言うべき巨大エネルギーの素粒子を発見して名前を「アマテラス」と名付けた。世界的にも話題になった大発見である。それで僕は画家としてアマテラスをイメージした油彩画を描いて大阪公立大学理学部に寄贈した。タイトルは「Amaterasu Particle Hommage à O.M.U. =写真=」である。そのことが縁で、山形大学理学部で講演とワークショップを行ったが、学生の目はすごく輝いていた。アートは科学とも相性がいいし、今後アートは理学部にも必要と思う。

現在ミュオグラフィも深化、進化してきて、それに応じてアート作品も表現が徐々に変わりつつある。当初、ミュオグラフィアートは、科学を知らしめる手段的な感じであったが、アート作品は非常にユニークであり、科学者がその作品から大きな刺激を受けて新たな発想や発見につながる。アートは単なる趣味とかの問題でなくて、大きな力を持っているアートは“そうぞう”(想像)から出発して“そうぞう”(創造)する世界。サイエンスも“そうぞう”(想像)から出発して“そうぞう”(創造)する世界。根は一緒であり、人間にとっては不可欠である。教育や基礎科学や芸術は、すぐに結果は出ないし、出ないかもしれないが計り知れない大きな力を持っている。ミュオグラフィアートプロジェクトは素晴らしい試みである。ミュオグラフィの先進国ハンガリーも大喜びである。

## 同窓のご縁がつかないだ、起業という新たな学びの扉

筒井良樹(理平21卒)

私は大阪市立大学理学部を卒業後、日本設計工学会などに入会し、学術活動に取り組んできました。知識の向上には努めてきましたが、一方で、自らの将来性について深く考える機会はありませんでした。このたび、同窓会関係者のご案内を通じて、関西ベンチャー学会主催の講演会(2月1日)に参加する機会をいただき、貴重な学びを得ることができました。

当日は、株式会社マテリアルゲート代表取締役の中野佑紀氏が「広島大学発ベンチャーの創業と事業展開」をテーマにご登壇されました。中野氏が広島大学大学院を修了後、どのような経緯でベンチャー企業を立ち上げられたのか、そして企業をいかにして成長させてこられたのかについて、詳しくお話を伺いました。なかでも特に印象深かったのは、同社が研究・開発を進める革新的な単分子誘電体技術です。これは

従来のメモリ素材の限界を超える可能性を秘めており、AIやIoT時代の次世代技術として非常に高い注目を集めています。

この技術は、広島大学の西原禎文教授による研究成果を基に、2023年に設立された企業によって実用化に向けた開発が進められており、24年には総額1.6億円の資金調達にも成功。量産化およびプロトタイプ開発の体制強化が図られているとのことでした。

実用化が実現すれば、メモリの小型化・高密度化に加え、消費電力の大幅な削減も見込まれるそうです。さらに、同社が広島大学インキュベーションオフィス内に拠点を構え、大学からの多方面にわたる支援を受けながら研究・事業を進めている点も大変印象に残りました。

同時に、大学発ベンチャー特有の課題についても多く語られました。たとえば、大学との契約調整や資金調達の難しさ、研究者と経営者という立場の違いなどが挙げられます。加えて、同社に入社した社員の将来性にも触れられ、研究者と同様に「期限付き雇用」であるという現状を知り、ベンチャー企業を取り巻く環境の厳しさを改めて実感いたしました。

大学発ベンチャーには今後の発展が期待される一方で、私はGAFAMのような世界的な巨大企業へと成長するのは容



易ではないと感じています。その理由は、起業の出発点に大きな違いがあるからです。GAFAMは「ガレージから始まったベンチャー」として知られ、大学などの支援を受けず、個人のアイデアと情熱を原動力に創業されました。

この点が、大学の支援を受けてスタートする大学発ベンチャーとの決定的な違いだと考えています。

また、今回ご登壇された中野氏は、大学院修了後に一般企業で勤務されながら、起業準備の一環として別の大学院で学ばれたうえで創業に至ったと伺いました。このお話を通じて、私は現在の大学教育だけでは、起業に必要な実践的スキルを習得するには限界がある可能性もあるのではないかと感じました。

今回の講演を通じて、大学発ベンチャーという新たな世界に触れ、自身の視野を広げる貴重な経験となりました。このような機会をいただけたこと、同窓会とのご縁に深く感謝申し上げます。



## 医療法人 福寿会

理事長 金村 福寿  
歯学博士

大阪公立大学 一般社団法人有恒会 理事  
大阪公立大学 大阪南支部 支部長  
(大阪市立大学商学部昭和56年卒)  
(朝日大学歯学部卒)

大阪歯科大学 元講師/明海大学歯学部 元講師  
日本老年歯科医学会 専門医・指導医

専務理事 金村 光野

歯学博士 金村 直子 歯学博士 金村 優吾  
医学博士 金村 晋吾 歯科医師 金村 裕貴  
医学博士 金村 英利子 理事 金村 舜  
理事 金村 寿之佑 理事 金村 晋ノ佑

かねむら  
NAOKOデンタルクリニック

院長 金村 直子



ホームページ

〒544-0004 大阪市生野区巽北2丁目17-15  
Tel.06-6755-6480  
むしぼゼロ

(介護予防) 特定施設入居者生活介護 サービス付き高齢者向け住宅 **福寿**

“安全安心な介護で笑顔の福寿”

ゆったりとした「二人部屋」もございます。

ご夫婦で自由に、都会生活を楽しみませんか。

看護師常駐



〒544-0004 大阪市生野区巽北2丁目13-14  
Tel.06-6752-2910  
ゴーツー ふくじゅ



## 同窓短信

### 万博・ポリビアナショナルデー式典と副大統領主催レセプション

大西基勝(商昭52卒)

私が市大卒業後、総合商社に勤務していたご縁で、この度、駐日南米ポリビア大使館、一般社団法人日本ポリビア協会より、4月21日の大阪関西万博夢洲会場「レイ・ガーデン」ホールでの「ポリビア多民族国家ナショナルデー式典」と、別会場でのレセプション(晩さん会)にご招待をいただき、参加しました。



ポリビアナショナルデー式典

今年はポリビア独立200周年、日本とポリビアの外交関係の絆が111周年を迎えるに当たり、チョケワンカ副大統領ほか多くの要人も来阪し、最近日本人にとってポリビア「ウユニ塩湖」人気もあってか、大阪市内の招待小学生150人を含めて、450人収容のホールは満席で立ち見が出るくらいの大盛況となり、素晴らしい「ポリビアナショナルデー」となりました。

夕方からの「グランドプリンスホテル大阪ベイ」でのレセプションでは、チョ



チョケワンカ副大統領とツーショット

ケワンカ副大統領とも歓談させていただき、私が京都の「抹茶フィナンシェお菓子」を差し上げると、とても喜んでくれました。

### 「のんびり老後」のほずが・・・

大西文字(女子大国昭52卒)

私は、大阪女子大学を卒業してすぐに私立高校に国語科教諭として就職し、58歳で退職しました。退職後は、女子大入学前から続けていたお茶を継続し40代にかじりかけた日本舞踊の稽古を再開し、歌舞伎を着物で観劇などなど少し早めの「のんびり老後」をスタートしました。



そんなある日、「大西さん、退職して時間あるでしょ。結婚相談室を手伝ってくれない?」と一本の電話。私が斐文会の支部役員をしていたときの支部長で、現在の「斐文会結婚相談室」の理事長からでした。結局私は2018年から運営委員に加わり、22年に一般社団法人に移行したときから理事兼相談員を現在も務めています。折しも同年は大阪公立大学が開学した年でした。おかげで今はかなり「濃い老後」。「斐文会結婚相談室」の活動が、近年の社会課題解決の一助ともなり得ることに深く意義を感じています。2027年には創設60周年を迎えます。よろしければ7ページの広告もご覧くださいませ。

### 医療医院経営に向けて

梅原ちづく(文平14卒)

国指定許可の大学で医療経営マネジメントプログラム・育成講義が受けられるシステムが文部科学省の課題解決型高度医療人材養成プログラム選定事業にあります。

私の父親は医師、そして親戚も医師と医学・医療関係に従事しています。このような環境で育ったため、いつの日



か私自身の病院医院を取得し経営マネジメントを担いたいと兼ねてから思っており、病院経営講義を受けたいと思っています。

東京大学高度医療経営人材養成プログラムや神戸大学実践的病院経営マネジメント人材養成プラン、京都大学実践的医療経営プロフェッショナル教育プログラムなどから探しています。主な科目は病院経営や管理会計、組織論・人材管理、戦略論、医療機関リスク管理・診療情報管理学・医療計画制度・病院設計・病院設備など、120時間以上に及ぶ科目に従事します。今後ともご支援、ご鞭撻のほど、よろしく願います。

### インドネシア語が取り持つ不思議な縁(えにし)

小原一浩(商昭48卒)

23年ほど前に泉北ニュータウンのスーパーで懐かしいインドネシア語を聞いたのをきっかけに一人の若者と知り合いになった。アリ・レゴウォさんでインドネシア国有航空機製造会社から派遣され、大阪府立大学の大学院で航空



アリ・レゴウォさん(左)と小原さん

工学を研究している学生さん。暫くして、卒業式と一緒に来ないかと誘われ、妻と赤ん坊と一緒に府大の卒業式に参列することになった。当日、博士の学位記を受け取ったのは彼一人で、留学中のインドネシアの同僚から「ドクター」と祝福の言葉を受けていた。

その後、帰国され、長らく連絡が途絶えていたところ突然電話があり、今クアラルンプールにいるとのこと。マレーシア国際イスラム大学(IIUM)の客員教授になっていた。

暫くご無沙汰の後に、また国際電話が入り、今、ドバイにいると言う。アリス

んは今、アブダビのHigher Colleges of Technologyに移り、航空工学・科学部門で次世代の航空技術者の育成に尽力中だ。今年4月、アリさんから「私たち家族にとって、日本は単なる滞在先ではなく、第二の故郷、とも言える大切な場所です。私たちは2～3年ごとに日本を訪れ、大切な思い出を振り返りながら、家族のような友人たちと再会することを楽しみにしています」とのメールが届いた。

### 大阪と青森は遠くない

乗鞍敏夫(生平12卒)



心は大学生に戻った同窓生と青森ポーズをする乗鞍さん

私は、学部・大学院の9年間を杉本キャンパスで学んだ後は、青森県立保健大学で教員を務め、20年近くになります。

私の研究室の卒業生である佐々木裕太郎くんが小島明子先生の研究室に進学し、博士後期課程の研究をまとめながら、今年、青森県立保健大学の教員として戻ってきました。研究者としての成長を見届け、今は同じ教員として肩を並べることができるのは、大きな喜びです。

今年は、湯浅勲先生、小島明子先生にご来青いただき、地吹雪の中を走る津軽鉄道の名物「ストーブ列車」の車内でイカを焼いたり、私の自宅の雪かきをご一緒させていただきました。

昨年度、日本栄養改善学会の学術総会が杉本キャンパス

で開催され、移転を控えるキャンパスで懐かしい顔ぶれと再会できました。約25年ぶりに再会した同級生とは、心はずぐに昔に戻り、昔話をしながら二人でキャンパスを歩きました。



山口法律会計事務所

所長 弁護士 山口 健一

(法学部 昭和49年卒)

事務所 〒530-0047

大阪市北区西天満1丁目7番20号

JIN・ORIXビル6階

TEL. 06-6361-3234 FAX.06-6361-0096

E-mai office@yamaguchi-law.jp

URL : https://yamaguchi-law.jp/

## 私たちの今が、社会の未来を創る

Create Value, Build the Future

社会情勢の変化に対応する「しなやかさ」、激しい時代の潮流を掴む「俊敏さ」  
志を持って自身の成長を求める「自分らしさ」、地に足をつけて着実に前進する「一歩先へ」  
これらは私たちが実践する行動スローガンです。  
私たちは今、この時の行動ひとつひとつを大切に、  
これからの社会に新たな価値を創造し、ステークホルダーのみならずともに  
未来の社会に貢献し続けることを約束します。



Toyo Suisan Ishikari  
Distribution Center  
Hokkaido, Japan 2020

Reclamation of Pulau Tekong  
Singapore 2015

Improvement of  
National Route 45 at Sakanoshita  
Iwate, Japan 2020



代表取締役 社長

早川 毅

1989年(平成元年)  
大阪市立大学 工学部卒

〒163-1031 東京都新宿区西新宿3-7-1 新宿パークタワー www.toa-const.co.jp

コーポレート  
メッセージを  
策定しました。



# 地域同窓会だより

## 千葉支部

### 校友会千葉支部となって初めての総会開催

千葉支部の第4回総会が3月1日、ホテルスプリングス幕張で開催され、昨年11月20日に大阪公立大学校友会千葉支部となって初めての総会となりました＝写真＝。来賓として大学からは北橋和也渉外企画課長、校友会の宮川庄一事務局次長、有恒会の北村吉文事務局次長、府大東京同窓会の山田昭正会長、東京支部の諏訪頼久支部長のご出席をいただき総勢38人の参加者となりました。今回は府大、大阪女子大OBOG併せて8人の方に加え、千葉三商大会代表にもご参加をいただき盛大な総会となりました。



冒頭、福田和記支部長より待望の森之宮メインキャンパスがいよいよ9月にオープンとなることや理系学部OBを含めた支部会員数が632人となっていること、さらに今後、府大、大女大卒業生が本格的に加わってくれば相当な規模となることが報告されました。また五代友厚顕彰会への協力の依頼も行いました。

総会は終始なごやかかつ楽しい雰囲気が進み出席者全員の30秒スピーチやくじ引き大会は大いに盛り上がりました。2時間半があつという間に過ぎ、最後に記念撮影を行って散会となりましたが、次回も参加したいとの声も多くいただき、次回は更に素晴らしい総会となるよう役員一同改めて気を引き締めています。

福田和記(商昭46卒)

## 湘南支部

### 総会で高德院住職が“鎌倉大仏”をテーマに講演

世界中から観光客が訪れる鎌倉大仏で有名な高德院で6月15日、大阪公立大学校友会湘南支部の総会が開催されました＝写真＝。総会では、令和6年度の事業報告と決算、令和7年度の事業計画と予算の審議ならびに、両校統合を象徴す



る幹事として児玉哲氏(府工平6修、児玉隆夫元市大学長のご子息)が選任されました。

総会終了後の特別講演会では、講師に高德院住職であり、慶應義塾大学文学部教授・同学部長でもある佐藤孝雄先生をお迎えし、「鎌倉大仏と研究の曼陀羅」と題して、学術的に高い内容を、平易な語り口でご講演いただきました。中でも、明治期に高德院が困窮していた時期、横浜居留地の外国人観光客向けに記念写真を提供していたという話が紹介され、当時の銀板写真や紙焼き写真が大量に発見されたそうです。住職は慶應義塾大学退官後、この膨大な資料をもとに、当時の服飾文化研究をライフワークとして取り組まれるそうです。

今回の総会会場となったのは、高德院の大仏脇にある「書院」と呼ばれる非公開の住職の私邸。非公開でありながら、当会のために特別にご提供いただき、梅雨空のアジサイや庭園を望みながらのぜいたくなひとときとなりました。

植嶋平治(商昭51卒)

## 石川支部

### 総会開催し「能登は必ず復興します」

大阪公立大学同窓会石川支部の総会が4月5日、さくら満開の中、JR金沢駅前の「あかめ寿司」で1年半ぶりに開催され、11人にご参加いただきました＝写真＝。今回は、大阪府立大学卒業の山佐修氏(経昭61卒)が初参加となり、両大学統合による今後の同窓会組織のより一層の広がりを感じさせる総会となりました。また、校友会事務局次長(有恒会副理事長)の宮川庄一氏(経昭45卒)、有恒会常務理事の亀井信吾氏(商昭52卒)にもご参加いただき、校友会、有恒会の近況についてのご報告も交えながら、和やかに交流を深める貴重なひとときとなりました。

ご承知のとおり石川県は、2024年元日に発生した能登半島地震により未曾有の災害を受け、同年9月の奥能登地区を中心とした豪雨でも甚大な災害を受けました。その後全国からの支援やボランティア等、官民一体となって懸命に復旧・復興事業が進められています。能登は必ず復興します。その時にはひとりでも多くの同窓生の皆様に、能登に訪れていただきたいと思います。坂本冬美も歌っています。「能登はいらんかいね!」

堀江寿郎(商昭52卒)、南俊輔(法平18卒)



## 京滋支部 会員の増強と世代間の交流促進に向けて

有恒会京滋支部は6月14日、からすま京都ホテルで令和7年度総会を盛大に開催しました＝写真＝。有恒会常務理事亀井信吾氏を来賓に迎え、総会では、令和6年度事業報告と収支決算報告、令和7年度事業計画と収支予算案並びに役員交代が承認されました。



令和7年度の活動方針では会員の増強活動として、大阪府立大学並びに大阪公立大学の卒業生の参加を促す取り組みを行い、理系同窓生、若手の同窓生、校友会との連携強化を検討することになりました。また若手会が設立されたことにより、若手卒業生のたまり場的な会合を開催します。

世代間の交流促進については、卒年別に組んでいた席を、老いも若きも交じり合った席にし、人生経験を積んだ先輩が後輩に生きるためのヒントを語り、柔軟な思考を持った若者が年配者に新鮮なアイデアを語り合える、そのような同窓会を目指すため、例会、バスツアーのあり方を検討して実践します。さらにHPにより、活動状況を継続的に発信し、会員相互の交流を図ることになりました。

上田雅弘(商昭59卒)

## 大阪北支部 第571回、第572回例会を開催

有恒会大阪北支部は3月14日、第571回例会を大阪公立大学大学院工学研究科航空宇宙工学分野の小木曾望教授を講師に招き、30人(うち女子大卒業者8人)の参加を得て大阪公立大学文化交流センター大セミナー室で開催しました＝写真＝。

演題は「鳥人間コンテストに挑戦する学生からの学びと＜故障しても大丈夫＞にするレジリエンス工学の紹介」。レジリエンス工学とは、万が一システムに故障や事故が起きた場合でも後の影響を最小限にし、早く修復させることを目指すものです。超小型衛星「ひろがり」の運用事例から、トラブルや不具合事例を検証し、安全性向上に寄与していきたいとのことでした。

また小木曾教授は、長年ウィンドミルクラブの顧問として「鳥人間コンテスト」に挑む学生たちの成長を見守っておられます。これまで優勝6回の実績を誇っており、今年も公大ウィンドミルクラブの機体が琵琶湖湖上をより遠くへ、より長く飛ぶことを期待しています。

また7月10日には第572回例会が、25人(うち女子大卒3

人)の参加を得て、同じく文化交流センター大セミナー室で開催され、大阪公立大学大学院文学研究科の仁木宏教授に「豊臣秀吉の大坂城はどこまでわかっているか」と題してご講演いただきました＝写真＝。



熱心に聞き入る参加者



秀吉が築いた豪壮華麗な大坂城は、徳川幕府によって豊臣家の権威を消し去るかのよう大量の盛り土で地中に埋められ、その上に現在の大阪城が築城されました。秀吉の大坂城は一般にはその姿はあまり知られていませんが、仁木教授は4年にわたる発掘調査で、城内各地の地下1～10数メートル付近に石垣や豊臣時代の地表面を発見されました。その調査結果も踏まえながら、豊臣大坂城の絵図をもとに、本丸を中心とする城の構造をバーチャルツアー的に詳細にご説明されました。また、発見された詰ノ丸石垣は、天守閣近くに今年4月1日にオープンした「豊臣石垣館」で見ることが可能とのことでした。

亀井信吾(商昭52卒)

## 南大阪同窓会 総会で校友会南大阪同窓会に名称変更

大阪公立大学校友会南大阪支部が5月24日、支部総会を開催しました。総会に先立ち久保惣記念美術館(和泉市)で＝写真＝、大河ドラマ「べらぼう」に登場する喜多川歌麿、東洲斎写楽などの浮世絵やピカソ、シャガール、モネなどの洋画を鑑賞し、バスで総会会場に移動しました。今回の総会・懇親会&美術鑑賞会には、市大、府大、女子大、公衆衛生学院、公大の5校の卒業生、修了者が集う機会となりました。



総会では、支部名を「大阪公立大学校友会南大阪支部」から「大阪公立大学校友会南大阪同窓会」に名称変更することが

承認され、頓花修二支部長が退任、会長に阪田茂さん(商昭57卒)が就任することになりました。また、校友会南大阪同窓会は市大出身者が多いことから、2025年度の活動計画で、支部会員に限定しない地域の府大及びその前身校の卒業生の集いを開催することを決定しました。

懇親会の最後は参加者を代表して最高齢の植田讓二さん(府工昭32卒)が中締め挨拶をされ、盛会のうちに閉会しました。

頓花修二(商昭54卒)

## 奈良支部 総会開催し親睦の輪を広げる

大阪公立大学校友会奈良支部(一柳茂支部長)の令和7年度総会が6月8日、奈良市法蓮町のホテルリガーレ春日野で開かれ約50人が参加＝写真＝。2022年10月に発足して以来、3回目の総会となり、さらなる会員増強に向けて交流を深めました。



総会では一柳支部長が「徐々に府大同窓生の皆さんの参加も増えてきており、今後ともあらゆる機会を通じて親睦と大学支援の輪を広げていきたい」と挨拶。大学から重松孝昌副学長、校友会から岡本直之会長が出席し、総会議事終了後の記念講演では阪和興業株式会社相談役の古川弘成氏(経昭44卒)が「経営者としての経験から感じたこと」をテーマに、常に挑戦の気概で取り組んできた会社経営についてざっくばらんに語られました。

懇親会ではチェリストの西川彩乃さんのチェロやピアニストの高島春樹さんのピアノの演奏も披露され、最後にはこの4月に誕生した大阪公立大学大学歌を練習し全員で合唱しました。今回の総会には府大工学部卒の同窓生4人も初めて参加しました。

今年11月16日には来年、世界遺産に登録される予定の「飛鳥・藤原の宮都」を巡る見学会を開催する予定です。

文：藤山純一(法昭51卒)

写真：崎山光友(商昭50卒)

## 神戸支部・姫路しらさぎ支部 恒例の合同「利き酒会」開催

今年も神戸支部と姫路しらさぎ支部の合同で2月15日、代表銘柄「龍力(たつりき)」や「米のささやき」で有名な姫路市網干区の酒蔵「株式会社本田商店」で「利き酒会」を開催しました＝写真＝。



今年からはネットのみでの受付となり、午前の部では他の一般参加者・団体も併せて40人が参加した中、神戸支部から7人、姫路しらさぎ支部からは4人の合計11人の参加となりました。

最初に本田商店より、酒米「山田錦」に対するこだわりと創業期からのブランド確立への熱い思いをご説明いただき、後に控える利き酒に胸を躍らせることとなりました。

利き酒は「特別純米酒山田錦しぼりたて」と「大吟醸米のささやき『酒蔵の春』」の2種から始まり、それぞれの香りと味を楽しみました。また、他にも全国新酒鑑評会で金賞受賞の「米のささやきの生、荒走り、袋搾り、斗瓶取り」や「龍力」といった日本酒だけでなく、同社で別途醸造・販売している熟成古酒や梅酒、米焼酎、ジンなどの様々な酒を試飲することができ、利き酒を思う存分楽しむひと時となりました。

今年もこの会を通じて、神戸・姫路両支部の交流をより一層深めることができ、大変有意義な一日となりました。

山本和弘(経平19卒)

## 岡山同窓会 中百舌鳥会から岡山同窓会へ更なる躍進

岡山同窓会では6月21日に総会・親睦会を開催しました＝写真＝。大学からは大久保正昭本部事務機構次長、津戸正広校友会会長代行、そして講演には農学部園芸農学修士の辻本智子女史のご参加をいただき、「公立大学統合3年間の歩みと今後の展望」「ガーデンルネサンスとして日本の花文化で日本を変える」をテーマとした講演を拝聴致しました。

懇親会では参加20人の各自近況報告や会員を増やすための情報交換など和やかに行った後、最後は広川正彦新会長のリードで学生歌を歌い盛会の内に締めることが出来ました。

岡山同窓会は昭和42年11月に工学部出身者が中心となって中百舌鳥会として発足したもので、令和9年には発足60周年を迎えます。大学統合の流れにより大阪女子大そして今回の大阪市大との統合による大阪公立大学岡山同窓会とし



での今後の発展的拡大に向けての取り組みを更に強化していきたいと思っています。

大西正(府工昭44卒)

## 徳島有恒会 親睦ゴルフコンペ開催

徳島有恒会は4月19日、徳島カントリー倶楽部月の宮コースにて、親睦ゴルフコンペを開催いたしました! =写真=。天候にも恵まれ、7人が参加。大盛り上がりで和気あいあいとした楽しい時間を過ごしました。

遠藤真紀子(法平12卒)



## 愛媛支部 愛媛同窓会へ名称変更

梅雨空合間の6月21日、第19回愛媛支部総会がえひめ共済会館で、大阪府立大学卒業生2人(オブザーバー)、ならびに来賓の梅村晋一有恒会常務理事をお迎えして開催されま

した=写真。

総会に先立ち、山口信夫・愛媛大学社会共創学部准教授(商平24博)による「『商売っ気』のない商業者が地方を救う?」のタイトルで講演。松山市三津浜地区のユニークな地域おこしが巧みなスライドとともに紹介されました。



続いての総会では、大学統合後の同窓会の動向を踏まえ、幹事会における支部名称・組織変更の議論をもとに、新しい名称の「大阪公立大学愛媛同窓会」と新規約が提案され、拍手で承認されました(幹事一同 ホッ!)。

懇親会では、竹田美喜・子規記念博物館総館長(文院昭47修)による乾杯の発声で懇親会開宴、各人のミニスピーチ、そして万博クイズによるお米贈呈のアトラクションでは、「お米券」(和田淳一幹事の自家新米・初秋に贈呈)を2人の方がゲット、「米騒動」の続く中、拍手喝采の盛り上がりでした。

逍遙歌合唱、記念撮影ののち、来年は大阪公立大学愛媛同窓会の名称での開催を期して、散会となりました。

曲田清維(生院昭53修)

### 大阪公立大学同窓会・地域同総会 連絡先一覧 (国内、海外)

2025年7月現在

No.	海外支部	メールアドレス
1	北海道支部	<a href="mailto:hokkaido@omu-alumni.net">hokkaido@omu-alumni.net</a>
2	東北支部	<a href="mailto:tohoku@omu-alumni.net">tohoku@omu-alumni.net</a>
3	埼玉支部	<a href="mailto:saitama@omu-alumni.net">saitama@omu-alumni.net</a>
4	千葉支部	<a href="mailto:chiba@omu-alumni.net">chiba@omu-alumni.net</a>
5	東京支部	<a href="mailto:tokyo@omu-alumni.net">tokyo@omu-alumni.net</a>
6	横浜支部	<a href="mailto:yokohama@omu-alumni.net">yokohama@omu-alumni.net</a>
7	湘南支部	<a href="mailto:shonan@omu-alumni.net">shonan@omu-alumni.net</a>
8	静岡支部	<a href="mailto:shizuoka@omu-alumni.net">shizuoka@omu-alumni.net</a>
9	富山支部	<a href="mailto:toyama@omu-alumni.net">toyama@omu-alumni.net</a>
10	石川支部	<a href="mailto:ishikawa@omu-alumni.net">ishikawa@omu-alumni.net</a>
11	福井支部	<a href="mailto:fukui@omu-alumni.net">fukui@omu-alumni.net</a>
12	中京支部	<a href="mailto:chukyo@omu-alumni.net">chukyo@omu-alumni.net</a>
13	三重支部	<a href="mailto:mie@omu-alumni.net">mie@omu-alumni.net</a>
14	京滋支部	<a href="mailto:keiji@omu-alumni.net">keiji@omu-alumni.net</a>
15	有恒会 大阪北支部	<a href="mailto:osakahokubu@omu-alumni.net">osakahokubu@omu-alumni.net</a>
16	大阪南支部	<a href="mailto:osakaminami@omu-alumni.net">osakaminami@omu-alumni.net</a>
17	北摂支部	<a href="mailto:hokusetsu@omu-alumni.net">hokusetsu@omu-alumni.net</a>
18	南大阪同窓会	<a href="mailto:minamosaka@omu-alumni.net">minamosaka@omu-alumni.net</a>

No.	国内・支部名	メールアドレス
19	北河内支部	<a href="mailto:kitakawachi@omu-alumni.net">kitakawachi@omu-alumni.net</a>
20	神戸支部	<a href="mailto:kobe@omu-alumni.net">kobe@omu-alumni.net</a>
21	宝塚支部	<a href="mailto:takarazuka@omu-alumni.net">takarazuka@omu-alumni.net</a>
22	姫路しらさぎ支部	<a href="mailto:himeji.shirasagi@omu-alumni.net">himeji.shirasagi@omu-alumni.net</a>
23	奈良支部	<a href="mailto:nara@omu-alumni.net">nara@omu-alumni.net</a>
24	岡山支部	<a href="mailto:okayama@omu-alumni.net">okayama@omu-alumni.net</a>
25	広島同窓会	<a href="mailto:hiroshima@omu-alumni.net">hiroshima@omu-alumni.net</a>
26	有恒会 福山支部	<a href="mailto:fukuyama@omu-alumni.net">fukuyama@omu-alumni.net</a>
27	山口支部	<a href="mailto:yamaguchi@omu-alumni.net">yamaguchi@omu-alumni.net</a>
28	山陰支部	<a href="mailto:sanin@omu-alumni.net">sanin@omu-alumni.net</a>
29	香川支部	<a href="mailto:kagawa@omu-alumni.net">kagawa@omu-alumni.net</a>
30	徳島有恒会	<a href="mailto:tokushima@omu-alumni.net">tokushima@omu-alumni.net</a>
31	愛媛支部	<a href="mailto:ehime@omu-alumni.net">ehime@omu-alumni.net</a>
32	福岡支部	<a href="mailto:fukuoka@omu-alumni.net">fukuoka@omu-alumni.net</a>
33	鹿児島支部	<a href="mailto:kagoshima@omu-alumni.net">kagoshima@omu-alumni.net</a>
34	沖縄支部	<a href="mailto:okinawa@omu-alumni.net">okinawa@omu-alumni.net</a>
35	陵友会支部	<a href="mailto:ryoyukai@omu-alumni.net">ryoyukai@omu-alumni.net</a>
36	有恒会事務局	<a href="mailto:yukokai@omu-alumni.net">yukokai@omu-alumni.net</a>

No.	海外支部	メールアドレス
1	上海支部	<a href="mailto:shanghai@omu-alumni.net">shanghai@omu-alumni.net</a>
2	北京支部	<a href="mailto:beijing@omu-alumni.net">beijing@omu-alumni.net</a>
3	台湾支部	有恒会事務局: <a href="mailto:yukokai@omu-alumni.net">yukokai@omu-alumni.net</a>
4	香港支部	<a href="mailto:hongkong@omu-alumni.net">hongkong@omu-alumni.net</a>
5	バンコク支部	<a href="mailto:bangkok@omu-alumni.net">bangkok@omu-alumni.net</a>

No.	海外支部	メールアドレス
6	クアラルンプール支部	<a href="mailto:kualalumpur@omu-alumni.net">kualalumpur@omu-alumni.net</a>
7	シンガポール支部	<a href="mailto:singapore@omu-alumni.net">singapore@omu-alumni.net</a>
8	ニューヨーク支部	<a href="mailto:newyork@omu-alumni.net">newyork@omu-alumni.net</a>
9	ホーチミン支部	有恒会事務局: <a href="mailto:yukokai@omu-alumni.net">yukokai@omu-alumni.net</a>
10	ジャカルタ支部	有恒会事務局: <a href="mailto:yukokai@omu-alumni.net">yukokai@omu-alumni.net</a>

(注)

- 卒業生の皆様には、最寄りの支部のメールアドレスか有恒会事務局：[yukokai@omu-alumni.net](mailto:yukokai@omu-alumni.net)までご連絡ください。
- 各支部より入会のご案内をさせていただきます。お住まいに支部がない場合でも近隣の支部をご案内いたします。
- ご不明の点等は、事務局までお問い合わせ下さい。

※台湾、ホーチミン、ジャカルタにつきましては有恒会事務局までお問い合わせ下さい。



## 開高健関西悠々会総会・講演会など開催

開高健関西悠々会の今年度の活動方針の一つは、会員増強と開高健記念会等との交流。3月6日、大阪綿業会館での織田作之助賞授賞式・懇親会に参加、6月5日、関西大学図書館で開高健資料調査、7月27日、オダサク倶楽部との交流会に参加。9月12日、開高健記念会と開高健記念館（茅ヶ崎）にて交流会を開催しました。



関西大学図書館前にて

開高健の命日の12月9日、開高健悠々忌を近鉄北田辺駅構内（大阪・東住吉区）にある開高健文学記念碑前で開催。12月13日、総会・講演会・懇親会を開催する予定。講演会では開高健を研究されている関西大学文学部の増田周子教授を講師に招いて、テーマは「日本三文オペラ」、会場はアパッチ族が暗躍した場所に近いクレオ大阪東（大阪市城東区）を予定しています。新しいょう大学校「大阪の近代文学—大阪で悠々と生きた開高健」では、来年1月20日、2月10日、17日に吉村理事等が講演します。

開高健関西悠々会理事 上村修三（商昭53卒）

## 五代友厚顕彰会活動

五代友厚顕彰会は、大阪市立大学OB・OG有志、大阪公立大学起業部有志、DREAM五代塾有志等が中心となって、五代友厚顕彰を行っています。4月11日、DREAM五代塾主催「五代友厚ゆかりの地天川村探索」には、大阪公立大学、関西大学学生も参加し、一般社団法人「てんかわ天和の里」と五代友厚の鉱山開発について情報交換。7月14日、テレビ大阪「もしマネ万博特番『五代友厚物語』」（8/30放映）の収録に協力、9月6・7日、福島県桑折町主催「よみがえる半田銀山と五代友厚」展見学と桑折町教育委員会との交流会に参加しました。

11月3日には、森之宮キャンパスにて、五代友厚顕彰会報告会を予定しています。なお、大阪企業家ミュージアム主催



テレビ大阪「もしマネ万博特番『五代友厚物語』」の収録風景

「五代没後140年特別展示～五代友厚と歩んだ大阪～」が11月21日まで開催されています。

五代友厚顕彰会世話人 上村修三（商昭53卒）

## ミュオグラフィアート展開催

「ミュオグラフィアート展2025」が3月25日から30日まで、グランフロント大阪アクティブスタジオにて開催されました。ミュオグラフィとは、宇宙から降り注ぐ宇宙線が地球大気に衝突するときに発生するミュー粒子（ミュオン）を使って、地球の中を透視する技術です。人間の体を透視するX線が骨で止まるように、ミュオンは岩盤によって透過率が違います。この特性を活かして古墳、ピラミッドや火山の中を透視して内部構造を画像化することができます。



「ミュオグラフィアート展2025」にて

ミュオグラフィアートは、ミュオンやその応用をアートで表現して、そのままでは難しく受け取られがちなミュオグラフィについて一般の方々にもわかりやすく面白く伝えて、ミュオグラフィに関する知識を広く知っていただくことを目標としています。大阪市立大学OB・OG並びに大阪公立大学院生5人のメンバーは若い世代に、科学やアートをより身近に感じ、将来の選択肢を広げるきっかけにしていただければと思って活動しています。

亀梨祐司（商昭52卒）

## 商学部二宮研究室蔵元見学会

商学部教授、二宮麻里研究室による秋鹿酒造(大阪府能勢町)見学会が3月18日に開催され、起業部学生も参加しました＝写真＝。秋鹿酒造は、大阪府最北端の能勢町に1886年に



創業。創業より地元飯米を栽培、現在は酒米の山田錦等を栽培し、作付面積は現在約30町歩(30㌔)。秋鹿酒造は、約30年前に基本となる酒米栽培体系を確立、以後化学合成農薬・肥料を一切使用しない栽培で、かつ最新の技術や機器等を取り入れ、積極的に規模拡大。環境保全や耕作放棄地発生未然防止といった地域貢献を積極的に実践しています。二宮研究室では、酒蔵見学をしながら酒造の経営を学ぶ場を、地域に根差した取り組みを行いたい学生、新商品開発等起業を目指す学生ばかりでなく、卒業生(大阪市立大学・大阪府立大学・大阪女子大学)にも提供していきます。

起業部アドバイザー 上村修三(商昭53年卒)

## 「第7回日中大学学生文化交流展の開催報告」展

「第7回日中大学学生文化交流展の開催報告」展が4月9日から22日まで大阪府中央図書館(東大阪市)にて開催されました＝写真＝。本展では、第7回に出展された美術部青桃会、



写真部、青桃会OB・OG等の作品とこれまでの日中展に出展された上海大学書道部の書が展示され、また日中展での関西外国語大学生による優勝作品も展示されました。第8回以降については、美術部青桃会、写真部、書道部、青桃会OB・OG、大阪市立大学卒のアートクリエイター、大阪公立大学中国留学生学友会等と連携を図りながら、学生が中心となって芸術文化を通じて国際交流できる学生文化交流展が継続できることを願っています。

青桃会会長/日中大学学生文化交流展世話人  
亀梨祐司(商昭52卒)

## 市大少林寺拳法部OB会を開催

大阪市立大学少林寺拳法部OB会を4月12日、道頓堀ホテル(大阪市中央区)で、約30数人の出席を得て開催しました＝写真＝。



牧美喜男OB会長並びに幹部(2期)による開会の挨拶に続いて、藤田勝利先生(大阪市立大学法学部名誉教授:少林寺拳法部部長)にご挨拶をいただき、少林寺拳法部OB会特別顧問の美田暢紀氏(元監督)の乾杯のご発声で、和やかな雰囲気です。食事・歓談となりました。

今回は、ご来賓として大阪府立大学少林寺拳法部OB会名誉会長の中埜康幸氏、同前会長の鳥取隆弘氏が出席されて懇親を深め、今後、両OB会で現役の「大阪公立大学少林寺拳法部」を微力ながらサポートする方向で話が盛り上がりしました。

最後に、第3期主将の野口二郎氏によるプロローグ発声で、全員で逍遙歌「桜花爛漫」を合唱し、閉会しました。

幹事長 大西基勝(商昭52卒)

## 山形会ゴルフ大会の開催

商学部山形ゼミの第77回山形会ゴルフ大会を5月17日、京都府木津川の加茂カントリークラブで開催しました＝写真＝。当日は早朝から雨模様でゴルフ場に到着した頃には豪雨に見舞われました。幹事さんの「さあ、やるでえ!」の力強いテンションに引きずられスタートしました。でも、やっぱりボールが転がりません。それでも午後からは雨もあがりいつものように楽しい一日になりました。

晴天なら穏やかでフラットな丘陵コースを満喫できたのにと恨めしく空を見上げるといふか天を仰ぐショットが相次ぎます。プレー後はいつものように山形先生のご遺影と共に先輩後輩の垣根なく親交を深めることができました。

次回は優勝された西川公一朗氏(山形ゼミ7期)のお取り計らいで今年10月25日に名門三田ゴルフクラブで第78回山形会ゴルフ大会を開催する予定です。

山形会幹事 田中哲雄(商昭55卒)



## 市大、府大の準硬式野球部並びにOB・OG会が統合

市大、府大の準硬式野球部は、いずれも阪神六大学準硬式野球連盟に所属し、大阪公立大学となった後も、それぞれ杉本キャンパス、中百舌鳥キャンパスを拠点に2チームが存続し、春秋のリーグ戦で対戦してきました。しかし、森之宮キャンパスがこの度開設されるにあたり、準硬式野球部も大阪公立大学として一つのチームに統合し、今秋のリーグ戦から新たなスタートを切ることになりました。

これに伴い、それぞれのOB・OG会も統合することとなり、5月31日に杉本キャンパスで設立総会を開催＝写真＝。翌6月1日をもって、「大阪公立大学体育会準硬式野球部OB・OG会」がスタート。今後も引き続き、現役チームの支援、OB・OGの相互交流を図っていくこととなりました。



市大、府大ともかつては全日本選手権大会に出場するなど、隆盛を極めた時期もありましたが近年は低迷。統合によって部員数も増え、今後の躍進が期待されます。

準硬式野球部OB・OG会会長 中野亮一(法昭60卒)

## 杉本クラブが春、秋の例会

杉本クラブ第77回春の例会が4月24日に開催、この日は薄日差す散策には上々の天気恵まれ、午後3時過ぎには皇居東御苑入場の大手門に9人が集合。杉本クラブは季節の良い春と夏の会を開き、散策で知見を深め、その足で最寄りの居酒屋で食事をしながらショートスピーチを交えて懇親を楽しむ企画。

この日の東御苑は、ご多分に漏れず観光客の大半が欧米からの来日者。中国を始めとするアジアの人が少ないのは意外で。苑内は自然豊かで、二の丸雑木林、日本庭園や天守閣跡、松の廊下などの江戸城の遺構を堪能。御苑の敷地を杉本キャンパスと比較する奥山正昭さん(経昭44卒)の解説に聞き入る。午後6時から室町の東レ社員クラブで懇親会＝写真⑤＝。散策の喉の渇きを潤す乾杯のビールが美味しい。今宵の各自3分間スピーチのお題は、「私の思い出の一曲」で、「上海帰りのリル」「恋するフォチュンクッキー」「六甲おろし」等多様な楽曲が思い出と共に披露されました。

第78回夏季例会は7月26日、東京駅八重洲口の居酒屋で15人が集い催されました＝写真⑥＝。夏冬は昼食をとりながら、前半は参加者によるミニ講演、続いて恒例の3分間スピーチ



一チの二本立て企画。今日の講演は、北野好浩さん(文平2卒)の「脳出血サバイバー～いつの間にやらユーチューバー～」。脳出血の大病を不断のリハビリで克服し、今や7860人のフォロワーを有する押しも押されぬユーチューバーになった波瀾万丈の人生を熱く語っていただきました。



引き続きの3分間スピーチは「米高騰でしみじみ思うこと」。米離れの人もあるものの大多数の人は米価の高騰には、農業政策と流通の改善が不可欠であり、今や政党の「票田」と化した田を、本来の「稲田」に転換すべきとの意見。AIで適正米価を調べた人もいたが、AIにとってもハードルの高い質問だったよう。「米」に関して日頃考えることがなかったが、今回勉強になった、との発言で2時間の夏季例会は終了しました。

前田寿雄(商昭49卒)

 **ツカキグループ**

TSUKAKI

ツカキ(株) 塚喜商事(株) 京都和装(株)  
マリエクラッセ(株) (株)タムラ (株)京朋

**Growing Together**

～共に成長を～

**社長 塚本喜左衛門(S46 経卒)**

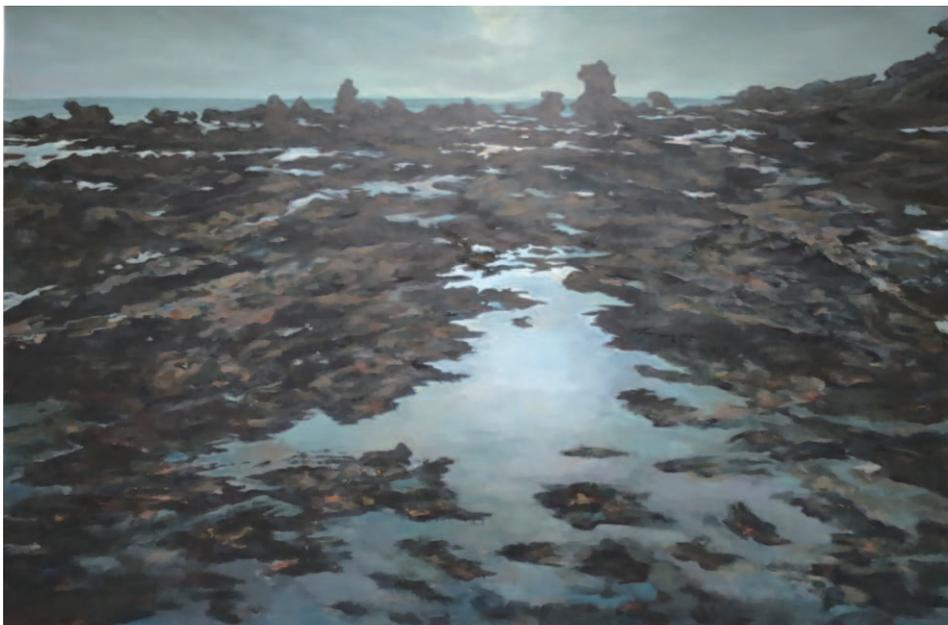
グループヘッドオフィス

京都市下京区烏丸通仏光寺上ル二帖半敷町661番地

〒600-8412 TEL. 075-341-3547(大代表)

<https://www.tsukaki.com/>

## 読者の作品

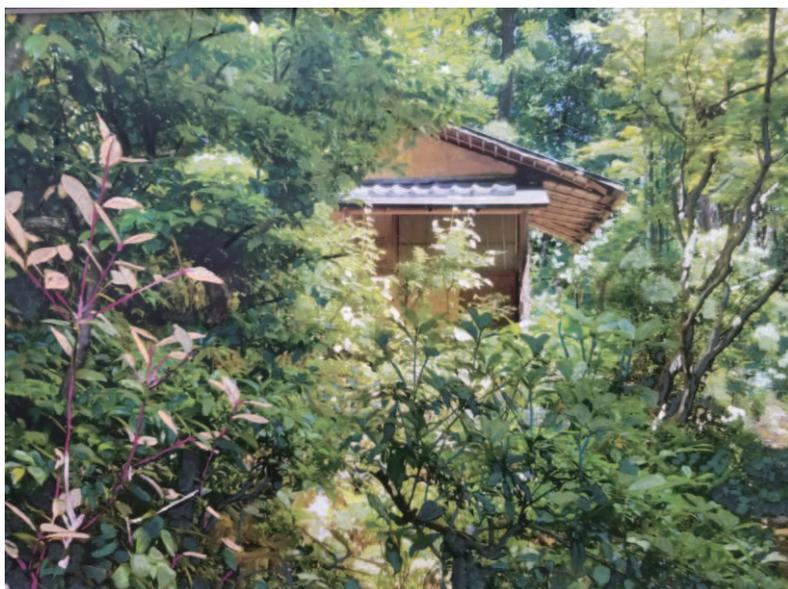


## 題名: 水の果てII

サイズ: 120F(1,940×1,303mm) 支持体: キャンバス 画材: アクリル

作者: 川端陽子(かわばた ようこ) (文昭52卒)

解説: ここ10年ほど、主に水をモチーフに描いています。この作品は、今年第102回春陽展に出しました。昨年秋に美術部青桃会OBOG展メンバーで合宿と称して、南紀を旅した時、勝浦の橋杭岩に出会い、その感動を絵にしました。橋杭岩は、1400万年前、大地を揺るがす大変動で、マグマが流れ込み、やがて隆起し、長年の海や雨の侵食で、今の姿になったそうです。この壮大な大地と水の物語から、ここは再生の地として、伝説が作られてきました。大地と水の圧倒的な力に私も惹きつけられました。それは、大地と水から生命が誕生し、いつかそこに必ず帰っていくという不思議さに根ざしたものかも知れません。これからも私なりの大地と水の物語をキャンバスに紡いでいきたいと思っています。



## 題名: 秋の茶室

サイズ: A3(420×297mm) 支持体: 紙

画材: アクリル

作者: 目加田博史(めかた ひろし) (商昭53卒)

解説: 「いくつになっても瞬時に学生時代に戻れる」。1978年に旧市大を卒業し33年たった頃、美術部「青桃会」先輩の4人展の案内を見て、なぜか気になり始めて大阪市北区老松通りの画廊を訪れました。先輩に「卒業以来続けるってすごいですね」というと「やってみたら?」と先輩。「でも30年以上描いてないから」というと「簡単よ!画廊を予約すればOK。絵はね額に入ればそれらしくなるものよ」とおだてられ、その場で画廊の予約を入れました。それから同期のメンバーに「画廊予約したから」というと、皆「ムリムリ」といいながらも満更でもない様子。タイトルは「第1回大阪市大青桃会 OB&G

展'73-'74『誰が描くんやろ?』展」。結果はムリムリがノリノリで14人が出展し、今では14回目を迎えました。50代だったメンバーは今や70代。しかし、いくつになっても、会うと一気に20代にタイムトラベルし、当時の話題に花が咲きます。メンバーの中から画伯が2人も誕生しました。あれこれ考えてやらないよりはやったもの勝ちを実感しています。

皆様の作品(絵画・写真・書・俳句・アート他)をお待ちしています。出稿要領は最終頁の出稿規定をご参照ください。

# 図書紹介



## 中国の変調とその背景

大阪公立大学経済学部名誉教授  
有賀敏之



本書は『中国の危機と世界』(2022年6月刊)の続編である。前著で中国において、不動産バブルの崩壊の露呈とともに都市単位で抗議運動が繰り返され、やがて人民共和国の崩壊に至るとの展望を

提示していた。

果たして同書の刊行から半年後に、中国各地で学生による抗議運動、「白紙運動」が起きた。さらに翌23年の春節明けには、武漢で定年退職者による大規模な抗議運動が起き、大連でもこれに呼応する形で同様の騒乱が起きた。天安門事件同様、中国国内ではこれらは報道されておらず、検索結果にも現れない。また日経新聞は24年秋ようやく、中国の不動産バブルの崩壊を認定した。これらはいずれも著者の指摘を追認するものである。

本書は公開された事実に基づき、中国指導部の24年7月以来の権力構造の変動について、鮮やかに洞察してみせたものであり、また現実の展開によって追認されることであろう。

(同文館出版、2025年6月、2400円+税)  
著者記

## 出町柳

森定学(経昭44卒)



銀行を舞台にしたビジネス小説です。室町の伝統産業への融資を減らす使命を果たして更なる栄達を考えている宮地が、高校の同級生あおいに邂逅。鴨川沿いを歩いて出町柳で別れた悲しい思い出がある。葵祭の日二人で訪れた美術館で、丹後の織物職人が「サラリーマンになった方がまし」と思いながら伝統技術を継承していることを知る。伝統産業への融資を増やそうと決意。あおいは地場銀行の友人大塚の妻であることを知る。大塚と協力できるのか。常務が室町からの撤退を進めると業界挙げての反対にあい、撤退中止を約束。言質として責任者の更迭要求があり、撤退に反対していた宮地が責任者とされ自宅待機となってしまふ。京都を去る宮地を大塚夫婦が出町柳で見送ってくれた。家族で年末の買い出しに来ている宮地の携

帯に人事部長から電話が入る。彼の処遇は  
いかに……。

(文芸社、2025年1月、600円+税)  
著者記

## 「第四の国難」日本を救う方法

—「失われた30年」の真相とその対策—  
青木育志(法昭46卒)



本書は題名や副題のとおり、「失われた30年」の原因を探り、その対策を立てる、という大それた企画の本です。政治家も経済学者も誰もやらないので「失われた40年」にさせないために、不適任にかかわらず敢えて書きました。日本経済長期停滞の主要原因は、  
①「新自由主義国家」になっていること、  
②「財務省支配国家」になっていること、  
③「温和型文明の悪しき面」が禍したことの3つです。特に、②と③に関しては次のことが言えます。日露戦争勝利後、傲慢に随した陸海軍は「腐朽軍隊」となり日本を敗戦に導いたし、戦後その血を引く財務官僚は「腐朽官僚」となり、日本を経済崩壊させた。ともに機能集団であるはずなのに、共同体化し「二重規範」「伝統主義の呪縛」となり「目的合理性」が働かない。

(アジア・ユーラシア総合研究所、  
2025年6月、1500円+税)  
著者記

## 新しい哲学による資本主義の諸問題の解決を

建部好治(経昭28卒)



ローマクラブは「成長の限界」で「このままイケイケの経済成長を目指すのは危険だ」と警鐘を鳴らしたが、40余年を経てワールドウォッチ研究所の「地球白書2013-2014」は地球システムの重要な生物物理プロセスとして気候変動や生物多様性、化学汚染など9つの「地球の境界」を明示した。

歴史的に見れば明らかのように人間は社会のなかの存在である以前に、自然のなかの存在である。人間は生態系の一部であることを自覚しないとイケない。「民主主義」を超えて「生体系主義」を最重要視する必要がある。この論文では動植物の生存条件を想像し、それを各人間が理性的に自己認識して行動する、という考えの元に議論を進めている。不祥事件・動植物生存域の狭隘化と気候大変動への対策は企業資本、国・国際機関における責任者の生態系主義、すなわち複眼の視点に立つ、という意識改革を重視して説明したが、各自の意識改革が基本になることは言うまでもない。

(大阪公立大学出版会、  
2024年6月、2000円+税)  
著者記

## 持続的な里山づくり入門

小堂朋美(創都平25卒)



近年、人々の自然環境への意識の高まりから里山保全活動が活発化しているが、同時にこれらの活動は厳しい課題に直面している。それは健全な里山の維持は年1~2回のイベントを開いてもできない。現場での毎年の地道な実践の持続性が必要となる。さらに活動が地域活性や人材育成につながっていないところにある。

本書は理念や思想が先行する自然環境保全活動の推進を目的とするものではなく、人々が里山で自然環境を享受しながら保全する持続的な活動のエネルギーの源泉は何かを探るものである。方法として2件の現実的な成功事例を代表例としてその要因を抽出した。

それらはソーシャル・キャピタルの存在によるもので、土地所有者、ボランティア市民、行政、仲介役NPOの4者間のwin/win関係の成り立ちを資金循環で捉え、具体的な数値で示した。その結果どれぐらいの資金が循環すれば活動の持続性を担保でき、次世代へつなぐことができるかをみる事ができる。

(大阪公立大学出版会、  
2025年6月、1800円+税)  
著者記

## 地域創造型観光

元大阪市立大学都市経営研究科長  
小長谷一之



今や世界の主要産業の一つになっている観光産業ですが、1990年代より大きな変革が起きました。それまでの旅行会社だけが作っていた定型的観光から、自由な趣味の観光(ニューツーリズム)へ、地元が創る観光(着地型観光)へ、観光とまちづくりとの融合(観光まちづくり)へ、などの流れです。

この新しい観光形態により今まで観光都市でなかったような、あらゆる自治体でも観光要素の気づきにより地域活性化が可能となり、現在すでにある観光都市は新しい磨き上げにより更に活性化できるメリットがあり、地方再生・地方創生に貢献します。またこれまでのマスツーリズムのような弊害が少ない、個人や小グループによるサステナブルな観光であり、アフターコロナのゆとり社会にも適しています。具体的には食、農、歴史、自然、健康などのテーマの観光が注目されるとしています。

本書は、この新しく主流になった観光様式(地域創造型観光)について、わかりやすく学べる定型的教科書です。

(晃洋書房、2024年7月、1800円+税)  
著者記

# 大阪公立大学文化交流センター専門家講座のご案内

1984年以来、40年以上の歴史を誇る大阪公立大学文化交流センターの「専門家講座」のご案内です。これまでに1486回の講義を開催しています。今年度から、新たに獣医学の講義を開催します。

貴方の「なぜ?どうして?知りたい!」に、大阪公立大学OB等の大学教員、弁護士、公認会計士、獣医師などの専門家が答えます。

日程:2025年11月20日(木)～2026年2月26日(木) 受講料:1回 500円(本学正規学生は無料)  
 時間:18:30～20:00(受付18:00～) お問合せ先:大阪公立大学文化交流センター  
 会場:大阪公立大学文化交流センター ホール TEL:06-6344-5425  
 (大阪市北区梅田1-2-2-600 大阪駅前第2ビル6階) (月～金 9:45～21:30/土 9:45～17:30)  
 定員:各講義 120名(先着順) MAIL:gr-shak-bunkou2@omu.ac.jp  
 申込:大阪公立大学公開講座WEBサイトから ※感染症の流行や自然災害の影響により、  
 大阪公立大学公開講座  日程・開催内容が変更となる場合があります。  
 申込締切:各講座とも、開催前日まで



日程	講義テーマ ※変更される場合があります。	講師
2025年 11月 20日(木)	なにわのスポーツ文化をひもとく ・世界に貢献してきたなにわのスポーツ文化の紹介	兵庫教育大学 名誉教授 後藤幸弘
11月 27日(木)	直木三十五と五代友厚 ・五代友厚を小説にした最初の作家である直木三十五の作品をめぐって	直木三十五記念館 事務局長 小辻昌平
12月 2日(木)	科学は誰のもの?定時制高校科学部の挑戦 ・NHKドラマ「宙わたる教室」にもなった定時制高校科学部の感動秘話	大阪府立今宮工科高等学校 定時制課程講師 久好圭治
12月 9日(火)	AI(人工知能)の歩みとこれからの暮らし ・AI(人工知能)の歴史と現在の問題点と接し方の解説	大阪公立大学大学院情報学研究科 講師 上野敦志
12月 18日(木)	大阪のまちと長屋・町家のリノベーション ・空間の魅力とリノベーションによる再生の工夫について解説	大阪公立大学大学院生活科学 研究科 教授 小池志保子
2026年 1月 8日(木)	私たちの税金 - 所得税 ・税金の基礎知識と所得税の仕組み	吉松会計事務所 所長/公認会計士/税理士 吉松宏晃
1月 13日(火)	国だって間違えることはある(国家賠償) ～B型肝炎訴訟、HPVワクチン薬害訴訟～	彩法律事務所 弁護士 野澤佳弘
1月 15日(木)	企業分析による企業の強みや課題を掴むコツ ・代表的な経営指標や特徴的な企業の経年比較、同業他社比較などをわかりやすく解説	おおえだ公認会計士事務所 代表/公認会計士 大枝伸一
1月 20日(火)	1/1000⇔23/52!? 乳幼児の虐待疑い事件で何故無罪が相次ぐのか	ゼラス法律事務所 弁護士 川上博之
1月 22日(木)	優良企業の見分け方と決算書の仕組み ・決算書の基本的な仕組みと優良企業の見抜き方	山添公認会計士事務所 所長/公認会計士 山添清昭
1月 27日(火)	性の多様性と法律 -LGBTQという言葉・SOGIEという視点-	なんもり法律事務所 弁護士 南 和行
1月 29日(木)	相続税と贈与税の実務と節税について ・相続争いの回避方法や相続税の節税のノウハウを解説	柴田公認会計士事務所 代表/公認会計士 柴田 洋
2月 5日(木)	小説『つながれた女の物語』① 作者「ハンナ・クラフツ」の名前をたどって-小説の発見から作者特定までの軌跡	兵庫県立大学環境人間学部・研究科 准教授 柳楽有里
2月 10日(火)	はじめてのNISA・iDeCo ～投資の基礎知識と資産形成支援制度～	ファイナンシャルプランナー 後藤美和
2月 12日(木)	小説『つながれた女の物語』② 語られなかった物語を読む-白人文化の受容と再構築	兵庫県立大学環境人間学部・研究科 准教授 柳楽有里
2月 17日(火)	証券市場の仕組み ・取引所を中心とした証券市場の仕組みを解説	株式会社大阪取引所金融リテラシー サポート部 課長 林 英生
2月 19日(木)	新聞を活用した情報収集・発信法 ・SNSや生成AIが身近になった今、「情報」とどう関わるか!?	読売新聞大阪本社 役員室次長 戸田博子
2月 26日(木)	臨床獣医師が紹介する獣医学と社会との関わり ・近畿圏唯一の獣医学研究機関・大阪公立大学獣医学部が彩る世界	北須磨動物病院 代表取締役・院長/獣医師 佐々井浩志

**専門家講座とは** 1982年10月、大阪駅前に大阪市立大学文化交流センターを開設した翌年、本学OBである弁護士、公認会計士などの専門家から、市民に育てられた大学の卒業生は卒業後の蓄積を市民に還元すべきと、「OB専門家による文化交流センター講座創設趣意書」が大学に提出され、文化交流センター専門家講座として始まったものです。



## 追悼

### 金森義一君を偲ぶ

梅原健一(経昭45卒)



君との最後の出会いは昨年12月7日の大阪市立大学準硬式野球部OB会(誠球会)。当日は創部70周年記念を祝う会で、懇親会終了後、天王寺に出て有吉先輩と同期の岩田君と私の4人での二次会では、久し振りの再会を喜びあい昔話に話が盛り上がり本当に楽しく、この日が最後になるとは思いもよりませんでした。

4月25日に君が脳梗塞で倒れ血栓除去手術をするも意識が戻らないとの連絡を貰い、奥様や家族友人達の何とか意識を回復してほしいとの強い願いも叶わず6月1日力尽きて帰らぬ人になりました。約1カ月君らしく良く頑張りましたね。しかしこんなに早く別れが来るとは・・・本当に残念でなりません。この日は君が監督や誠球会会長として長年応援してきた母校準硬式野球部と大阪府立大学準硬式野球部が統合した日でもあり奇縁を感じます。

君との出会いは大学1年の時、お互いが京都の北野天満宮の近くで生まれ育ったことが分かりすぐに意気投合し付き合いが始まり、君は1年から準硬式野球部で活躍、私は京都のクラブチームに入った。3年の秋、君が主将になったある日、9人揃わない厳しいチーム事情を聞かされ半ば強引に泣き落とされ準硬式野球部に入部。わずか1年の部活動でしたが、君のお陰で、春のリーグ戦、夏合宿(信濃大町)、3商大戦(東京遠征)、秋のリーグ戦では打撃ベストテン入り等々、素晴らしい思い出を作ってくれました。心から感謝の気持ちで一杯です。

就職はお互い第一志望が不合格でしたが、君がいろいろ調べてくれてダイキン工業と一緒に受け二人とも合格。入社後はお互い事業部は違うも無事定年まで勤めあげることができました。40年超諸々ありましたがダイキン一筋でお互い良く頑張りましたね。

高校、大学、ダイキンなどで知り合った酒好き野球好きの仲間8人でS会という楽しい酒飲みの会を作り約50年、家族ぐるみで付き合いこの8人が全員元気に還暦をむかえて大宴会を開催。その後M君が鬼籍に入り、古希には7人になり、そして7人で年相応に喜寿を迎えたのですが残念ながら君を失い6人になってしまいました。残された6人でかの地にいた二人の盟友を語りつつお酒を嗜みながらいまい少し頑張ってお過ごしたいと思えます。

千の風になって天上からどうか我々を見守って下さい。君と出会った大学1年からの約60年間、素晴らしい思い出をたくさん作ってくれて本当にありがとうございました。君との出会いの全てに感謝します。どうぞ安らかにお眠り下さい。

そして、来世でまた会いましょう。

合掌

### 川瀬(旧姓:細島)憲子さんを偲んで

村上芳子(商昭58卒)



川瀬さんは1990年大阪市立大学経営学研究科博士課程を単位取得後退学、その後京都大学より博士号を取得されました。学生結婚され「神田川」の歌にでてくるようなアパートでご主人と切磋琢磨され、1990年静岡大学人文学部助教授として就任され、2004年より教授になられています。

その頃は女性研究者、特に文化系研究者は少なく、いろいろなご苦労をされていました。2人のお子様小さい頃に土日に講演を依頼されたことがあり、引き受けるから託児所を手配して欲しいと担当者に依頼したというエピソードは有名です。女性研究者の先駆者として足跡を確実に残してこられました。あの細い身体のどこにあれだけのエネルギーがあるのだろうと、いつも驚いていました。

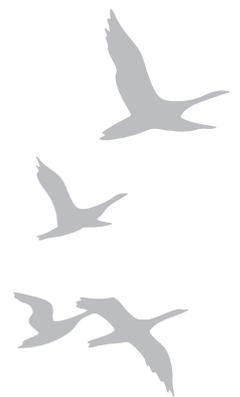
お子様に手がかからなくなってくると、地方財政の研究に邁進され著書も多数執筆されました。市町村合併、東日本大震災、リニア新幹線、コロナ禍など時代を捉えた中で地方自治がどうあるべきなのか追求されていた姿勢が懐かしいです。

ずっと駆けずり回ってきた人生、やっとゆっくり休めることができるのではないのでしょうか。

心よりご冥福をお祈りいたします。

### 謹んでご冥福をお祈りいたします(敬称略)

物故者氏名	学部卒年	逝去月日
坂 道夫	学昭22	令和7年3月6日
楊 大鵬	医昭26	令和4年4月3日
仁村博晃	医昭26	令和5年12月30日
岩井照美	西華昭26	令和3年
細谷八郎	学商27	令和7年2月26日
大垣淳一	学昭28	令和7年1月31日
岡田幸雄	学昭28	令和7年3月13日
松本昌美	経昭28	令和6年10月8日
中家隆造	経昭28	令和7年6月27日
家木裕隆	経Ⅱ昭29	令和6年11月7日
北代勇夫	医昭30	令和5年10月15日
森井淳吉	経修昭31	令和7年1月24日
兼田 隆	経昭31	令和5年10月18日
長谷川文夫	法昭31	令和6年5月20日
横山俊彦	医昭31	令和6年5月12日
笹尾宏吉	医昭31	令和7年2月6日
岩岡 勤	商Ⅱ昭32	令和6年9月9日
山本榮三	商昭32	令和7年1月27日
飯田 功	商昭32	令和7年3月9日
山田和弘	医昭32	令和5年9月8日
野村定生	医昭32	令和6年8月4日
葛尾信弘	医昭32	令和6年10月15日
隅谷尚典	府経昭33	



物故者氏名	学部卒年	逝去月日	物故者氏名	学部卒年	逝去月日	物故者氏名	学部卒年	逝去月日
奥中克治	法修昭33	令和6年9月	山野慶樹	医昭37	令和6年7月18日	三浦靖徳	医昭46	令和6年5月1日
和氣健二郎	医昭33	令和6年10月12日	東 禹彦	医昭37	令和6年11月12日	豊川元一	医昭48	令和6年5月22日
阪本仁子	医昭33	令和7年1月28日	竹内弘二	経昭38	令和7年7月16日	塩出 進	医昭48	令和6年6月14日
米沢隆稔	経昭34	令和6年12月	石井義久	医昭38	平成30年	若狭研一	医昭48	令和7年1月7日
矢野郁也	医昭34	令和6年2月28日	鈴木崇由	商昭39	令和7年6月12日	神藤敏文	経昭52	令和7年2月15日
丸川美郎	医昭34	令和6年7月19日	村崎亮一	府経昭39	令和7年1月16日	貫野 徹	医昭52	平成17年
奈良芳五郎	商昭35	令和6年12月12日	菅野 勲	法昭39		松浦俊彦	法昭53	令和7年3月1日
小林正治	商昭35	令和6年12月	吉條久友	医昭39	令和5年5月8日	堤谷 浩	商昭54	令和7年3月11日
誉田喜六	商昭35	令和7年4月18日	堀内康生	医昭39	令和6年4月30日	前田正信	医昭54	令和6年10月18日
吉川正男	経昭35	令和7年5月6日	川口俊夫	経昭40	令和7年4月10日	稲田 隆	経昭55	令和6年12月20日
西岡史郎	理昭35	令和6年6月	森 功	医昭40	令和6年7月26日	松本健二	医昭55	令和6年10月6日
元木純邦	文昭36	令和6年9月	松本 学	医昭41	令和5年10月11日	田中俊司	医昭56	令和6年10月9日
西村良一	医昭36	令和5年9月28日	谷垣 弘	経昭43	令和6年2月	川瀬憲子	経修昭61	令和7年5月19日
大杉 恒	経昭37	令和4年12月12日	三谷栄時	医昭43	令和5年12月30日	高木陽一	法昭61	令和6年12月24日
加藤博明	医昭37	令和6年3月5日	久保研二	医昭44	令和6年4月6日	保川英一	医平2	令和6年6月
長田 明	医昭37	令和6年6月25日	金森義一	経昭45	令和7年6月1日	和田 隆	経平30	令和4年10月



## 「有恒29号」への読者のご感想、ご意見

ご意見、ご感想、ありがとうございます。下記にて抜粋し掲載させていただきました。今後の記事掲載に活用させていただきます。引き続きご感想、ご意見を賜りたくよろしくお願い致します。

● 巻頭特集「古の学府に学び大阪公立大学の将来を描く」を読んで有恒会会員及び四天王寺奉賛会員としての感想文をお送りします。

大阪公立大学森之宮キャンパスが位置するこの地は、聖徳太子が創建した四天王寺に隣接し、1400年の歴史が息づく由緒ある場所です。太子は仏教の教えを広めるとともに、教育・医療・福祉の礎となる「四箇院」を設け、人々の苦しみに寄り添う慈悲の精神を制度として具現化しました。この理念は、後の日本社会の制度設計に先駆けるものであり、太子の深い人間愛と先見性を今に伝えています。

奈良時代には聖武天皇がその精神を受け継ぎ、「鎮護国家」の思想のもと、東大寺に壮麗な盧舎那仏を建立しました。東大寺は単なる宗教施設ではなく、文化と学問の中心として国家的役割を果たし、仏教文化の結実の象徴となりました。光明皇后もまた、聖徳太子の理念を継承し、施薬院・悲田院を充実させることで福祉政策を大きく前進させました。これらの取り組みは、東大寺という精神的拠点が果たした歴史的役割であり、現代日本の医療福祉制度の源流といえるでしょう。

1300年の時を超えて、聖徳太子の「慈悲の理念」が大阪公立大学森之宮キャンパスに息づいていることは、偶然ではなく、深い歴史的必然です。卒業生として、この地に根ざす大学が地域社会に貢献し、人々の幸福を追求する使命を担い続けることを、心から願っています。聖徳太子以来の仏教的理念が、新たな光となって未来を照らし出すことを、私は信じてやみません。

高野勝行(商平13卒)

● 充実した内容の会報誌をありがとうございます。巻頭特集「櫻木弘之学長×橋村公英第224世東大寺別当が語る風景『古の学識の府に学び大阪公立大学の将来を描く』が大変興味深

く、公立の機関の代表が宗教者と語り合うという、その稀少性・貴重さに感嘆させられました。内容面もどちらか一方が意見を譲るのではなく、お互いが思いの丈を語られる、まさに対談のあるべき姿を拝見した思いです。

櫻木学長は大学教育のあり方を通して、橋村別当は大乗仏教の視座から、いかに現実社会を捉え歩んでいくのかを語られました。私は、両者の研ぎ澄まされた高見に、納得と関心の思いを募らせました。そして、両機関の最盛期は違えど、「教育」「福祉」「慈悲」といった相通じる考え方を私たちにご提示くださいました。

先行きが不透明・不確実な現代社会において、大学院生の、また人間の原点に立ち返れる貴重な記事をありがとうございます。

福井颯馬

(生活科学研究科生活科学専攻食栄養学コース  
博士前期課程2回生)

美術印刷・企画デザイン・フォト **NP**

ご提案・創造それが私共の商品です。  
Presentation & Creation

株式会社 日本プリンティング

代表取締役 大西基勝(商昭52卒)

〒537-0002

大阪市東成区深江南2丁目13番17号

TEL (06) 6981-5566 FAX (06) 6981-5083

<http://www.nihonprinting.co.jp>

●会報誌へのご意見、ご感想をお寄せください

今回の会報誌についてご感想、ご意見をお聞かせください。ご自由にお書きいただくか、下記の質問に対してのお答えをお書きいただいても結構です。

①良かったと思う記事はどれですか。できればその理由もお聞かせください。 ②これからどのような記事を掲載してほしいと思われますか。

会報誌専用メール:kaiho@omu-alumni.netにて、お名前、学部学科、卒業年、住所がお変わりになった場合は新住所をご記入の上、お送りください。よろしく願い申し上げます。

これからの行事予定

- 有恒会2025年度第2回理事会  
10月28日(火)11:00(文化交流センター)
- 校友会「支部・地域同窓会合同会議」  
11月3日(祝)13:00(森之宮キャンパス)
- 商友会総会  
11月22日(土)14:00(学術情報総合センター1F文化交流室)
- 民間企業OBOG交流会／11月29日(土)13:00(高原記念館)
- 女性部会(WPC)第13回交流会／12月6日(土) 未定
- 教員OBOG交流会／12月20日(土) 未定
- ビジネス交流会／2026年1月31日(土)13:00(文化交流センター)
- 有恒会2026年度第1回理事会  
4月21日(火)11:00(文化交流センター)
- 有恒会2026年度定時社員総会  
5月30日(土)14:00(学術情報総合センター)

各支部総会

- 北海道支部総会／10月4日(日)11:30(BAR&GRILL Splish)
- 校友会神戸支部総会／10月5日(日)12:00(神仙閣神戸店)
- 校友会三重支部総会  
10月11日(土)17:00(ホテルグリーンパーク津)
- 校友会埼玉支部第1回総会  
10月25日(土)10:00(さいたま市民会館おおみや)
- 福井支部総会  
10月25日(土)12:00(中華シノワ ホテルフジタ5F)

- 横浜支部総会  
11月8日(土)11:30(ローズホテル・重慶飯店新館)
- 北摂支部総会  
11月9日(日)11:00(千里阪急ホテルアイヴィーホール)

文化交流センター談話室だより

大阪駅前第2ビル6階の大阪公立大学文化交流センター談話室の「建部文庫」は、建部好治(経昭28卒)が大学に寄附された不動産投資信託商品の配当金で運営。建部文庫図書選定委員会(3/29)にて選定図書方針が承認され、今年度第1期分として石原武政著『小売業近代化への胎動』ほか計63冊(12万5千円)が納品された。談話室では、大阪公立大学附属植物園内で撮影されたメタセコイアなどの四季折々写真や青桃会OBOG等の絵画・書画等を展示。利用時間は平日:13時～19時、土曜日:13時～17時30分。

大阪市立大学同窓会清算手続き

大阪市立大学同窓会解散に伴う清算手続により、大阪市立大学同窓会HPは2026年3月に閉鎖。大阪市立大学同窓会資金残余金158万4791円(予想額)は大阪公立大学校友会に移管。五代友厚寄付金残余金93万8790円(予想額)は、五代友厚像修繕基金として、一般社団法人有恒会が保管します。

なお、大阪市立大学同窓会「総会資料」「五代友厚関係資料」「会報有恒」の各製本を、大阪公立大学大学史資料室に寄贈しました。

# Mie Kotsu Group

三重交通グループは、安全、安心、安定、快適なサービスの提供を目指します。



- 運輸業 三重交通株式会社 名阪近鉄バス株式会社 三交伊勢志摩交通株式会社 三重急行自動車株式会社 八風バス株式会社 株式会社三交タクシー
- 不動産業 三交不動産株式会社 三重交通コミュニティ株式会社 株式会社三交不動産鑑定所
- 流通業 三重交通商事株式会社 株式会社三交クリエイティブ・ライフ 株式会社三交シーエールズ 三重いすゞ自動車株式会社 株式会社エム・エヌ・ポディーワークス
- レジャーサービス業 株式会社三交イン 鳥羽シーサイドホテル株式会社 三交興業株式会社 御在所ロープウェイ株式会社 株式会社三重カンツリークラブ 株式会社松阪カントリークラブ 名阪近鉄旅行株式会社 株式会社三交ドライビングスクール ミドリサービス株式会社 三交ウェルフェア株式会社 三重県観光開発株式会社

## 三重交通グループホールディングス株式会社

〒514-0032 三重県津市中央1番1号 <https://holdings.sanco.co.jp>



掲載広告一覧

(掲載順)

小野薬品工業(株).....	表2
オリエンタル白石(株).....	表2
(株)Cominix.....	1
(株)京都銀行.....	1
一般社団法人大阪女子大学同窓会斐文会結婚相談室.....	7
奥アンツーカ(株).....	9
(株)阪急交通社.....	19
サムテック(株).....	20
澄住サポート(株).....	20
弁護士法人中央総合法律事務所.....	21
サンクリエイテム工業(株).....	25
大陽日酸(株).....	28
(株)杉村倉庫.....	28
(株)アシックス.....	29
ニシムラ(株).....	30
森下会計事務所.....	30
(株)ジェイブライド(ロイヤルマリッジ).....	31
医療法人 福寿会.....	33

山口法律会計事務所.....	35
東亜建設工業(株).....	35
ツカキグループ.....	42
(株)日本プリンティング.....	47
三重交通グループホールディングス(株).....	48
阪和興業(株).....	表4

会報広告料金表 (消費税込み)

全ページ	W181×H260mm
記事中(カラー)	180,000円
表4(カラー)	230,000円
表2(カラー)	220,000円
表3(カラー)	200,000円
半ページ	W181×H130mm
記事中(カラー)	90,000円
1/4ページ	W181×H68mm
記事中(カラー)	50,000円
1/8ページ	W86×H68mm
記事中(カラー)	25,000円

※本件についてのお問い合わせ 会報誌編集委員会 広告担当:世瀬義久(経昭53卒) 〒558-8585 大阪市住吉区杉本3-3-138 Tel:06-6605-2087 Fax:06-6605-2088

会報「有恒」投稿規定

1. 投稿の種類等

原稿には、執筆者の氏名・学部・卒業年次、住所を明記して投稿お願いします。  
規定文字数を超過する場合は、全学HPへの掲載が可能なので、HP用と明記願います。

種類	説明やお願い等	字数
1 論壇・随想	「表題」は付けて下さい。(関連及び顔写真)	1,200字以内
2 同窓短信	近況や思い出など。(顔写真)	400字以内
3 地域同窓会だより	支部関係の活動や諸行事。(関連写真)	400字以内
4 会員のひろば	同期会、ゼミ研究科OBOG会、クラブOBOG会、同好会等の諸行事。(関連写真)	400字以内
5 図書紹介	原則、会員および大学関係者に限ります。紹介する図書1部のご提供をお願いします。	400字以内
6 追悼のことば	故人の思い出など。(故人の顔写真)	400字以内
7 読者の声・作品	読者のご意見・読者の作品(絵画・写真・書・俳句・アート等)。(顔写真)	400字以内

※「図書紹介」を除き、原稿には原則として写真の添付をお願いします。

2. 原稿と写真等の採否および加筆・修正・削除など

- (1)原稿および写真等は、編集委員会に一任お願いします。
- (2)原稿の字数は厳守お願いします。オーバーした場合は、削除する場合があります。  
なお、支部だより、会員のひろばへの投稿はHPにて全文掲載します。

3. 原稿の作成、提供と掲載について

- (1)原稿及び写真は出来る限りメールにてお願いします。  
写真ファイル(jpg)をメール添付にて送信してください。
- (2)個人情報保護のため、詳細な住所は同窓会報誌に掲載しません。
- (3)参加者(「支部だより」と「会員のひろば」)の「氏名・学部・卒業年次」はスペースの関係で同窓会報誌には代表者のみ掲載し、全員の情報はHPにて掲載します。

4.原稿の締め切り

- (1)4月発行・・・1月末日締め切り
- (2)10月発行・・・7月末日締め切り

5.投稿方法と投稿先

- (1)メールアドレスが下記のように変更になりました

**kaiho@omu-alumni.net** (会報誌専用)

- (2)郵便

〒558-8585 大阪市住吉区杉本3-3-138  
大阪公立大学内 田中記念館3階  
同窓会報誌「有恒」編集委員会宛

編集委員 (〇印編集責任者)

奥山正昭 (経昭44卒)	亀梨祐司 (商昭52卒)	稲葉朔夜 (法2)
田中祐尾 (医昭44卒)	栗原政二 (府経昭52卒)	都我秀成 (商2)
曾我部健 (理昭45卒)	上村修三 (商昭53卒)	前多菜緒 (商2)
山本 孝 (工昭45卒)	世瀬義久 (経昭53卒)	井川咲世 (商2)
野田忠男 (工昭45卒)	村上芳子 (商昭58卒)	藤井和奏 (法2)
吉原純一 (商昭49卒)	長瀬りか (生平1卒)	廣瀬 凜 (法1)
竹中敏実 (経昭49卒)	辻野美由紀(看院平22修)	藤本天駕 (理1)
〇藤山純一 (法昭51卒)	中村祐子 (文平27卒)	
大西基勝 (商昭52卒)	安藤根八 (創院平30修)	

編集後記

大阪公立大学が開学して4年目を迎え、9月には森之宮メインキャンパスもオープンしました。これに伴い市大、府大の同窓会の統合も進んでいます。その地域同窓会では最大の東京支部でも活気溢れる統合同窓会設立総会が開催されました。今号の巻頭対談ではその両トップに統合までの思いや今後の活動などについて熱く語り合っていました。これが起爆剤となり全国、世界に同窓会統合の気運が高まることを期待したいと思います。同窓会報誌「有恒」も今号で30号を数えました。これまで以上に読み応えのある紙面作りに励む一方、「公序良俗に反すること」や「政治的活動に関すること」などは掲載しないという編集方針で臨んでいきたいと思っています。今後ともよろしくお願ひ申し上げます。(純)

発行：一般社団法人有恒会

〒558-8585 大阪市住吉区杉本3丁目3-138 大阪公立大学内  
電話 06(6605)2087

制作・印刷：株式会社 日本プリンティング

〒537-0002 大阪市東成区深江南2丁目13-17

# すべての「ほしい」を

つなげてく。

「ほしいモノ」を届ける。さらには、「してほしい」の声にも応える。  
あらゆる「ほしい」をつなげていく。それが私たち、阪和興業。

お客さまを誰よりも理解し、先手先手でニーズを捉える。  
私たちが日々鍛えてきたのは、「ほしい」の先まで見通す目利き力。

変わりつづける世界よりも早く、  
未来にまなざしを向ける商人でありたい。  
すべての「ほしい」をつなげて、  
世界を前に進めていく。



商  
社 阪和興業

HK HANWA